

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を5「十分」～1「不十分」の5段階で質問した。

(1) 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

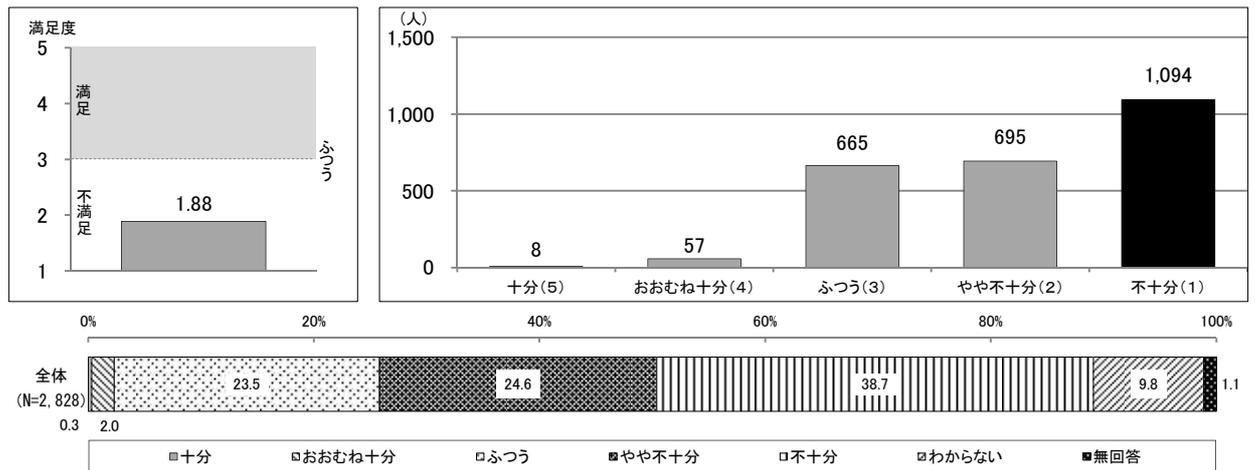
ア 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

問1-1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

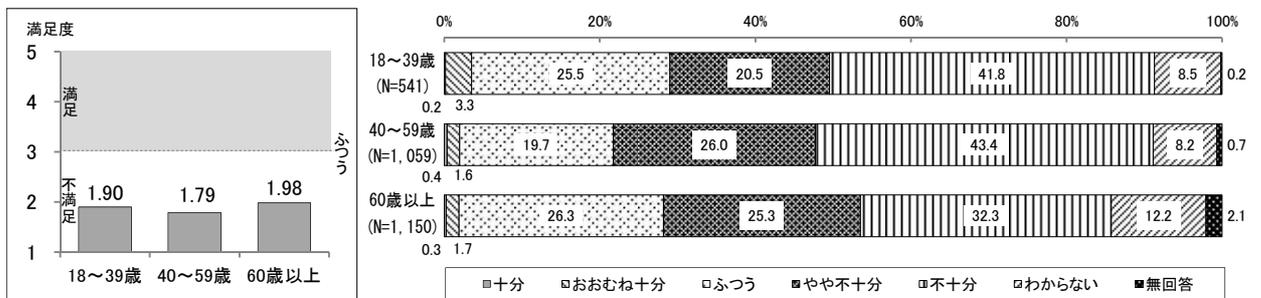
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.88で、「ふつう」の3より1.12低かった。回答では「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.3%、「ふつう」は23.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は63.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は25.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く1.98であり、不満を感じていない人の割合は28.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.79であり、不満を感じていない人の割合は21.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,789 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、717 人 (40.1%) から回答があった。

回答の一部

- 働く場が少なく、賃金も他県に比べて低いように思う。(女性/40 歳代/北秋田地域)
- 大卒の就職先として県外が多い。高卒は県内就職が増えているが、地元志向の結果であり、魅力的企業が多いからではないと考える。(男性/30 歳代/秋田地域)
- 若者が希望する職場、職種が足りていないのはもちろんだが、旧態依然の職場環境(低賃金を含む。)が若者の離職を促進してるのではないかと思う。県には、今以上に I T 企業や大手企業等の誘致に努力していただきたい。(男性/50 歳代/秋田地域)

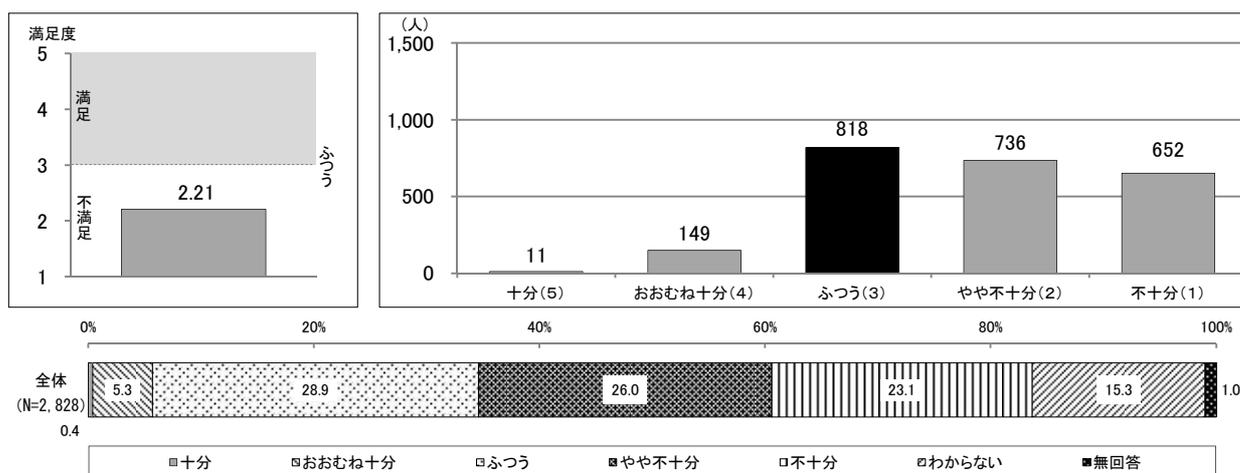
イ 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

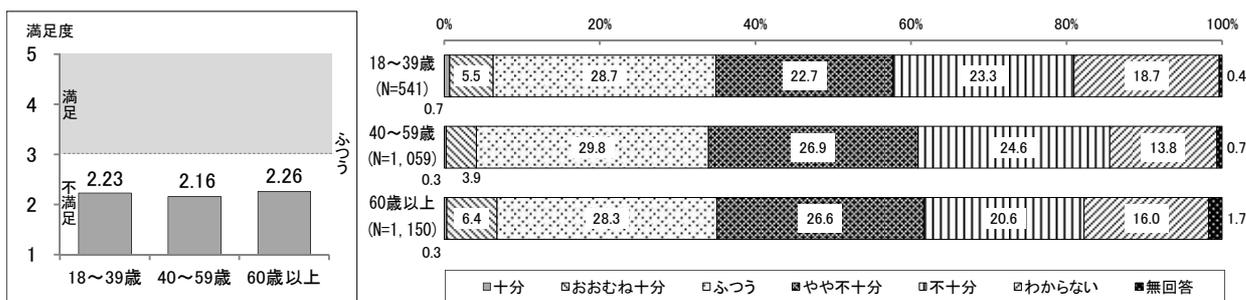
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.21で、「ふつう」の3より0.79低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は5.7%、「ふつう」は28.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は49.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は34.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.26であり、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.16であり、不満を感じていない人の割合は34.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,388人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、408人(29.4%)から回答があった。

回答の一部

- 県外の就職先の方が様々な分野があり魅力的なものも多く、県内就職はあまり進んでいるとは思えない。(女性/20歳代/仙北地域)
- 将来性、安定性において県外企業に劣る。転職先が少ない。(男性/40歳代/秋田地域)
- 県内大学で就職の指導をしているが、地元出身の学生も就職時には県外に出たがる。大企業が少ないこともあるが、このまま一生を秋田県内で過ごすことをもったいないと感じている学生も多い。(男性/40歳代/秋田地域)

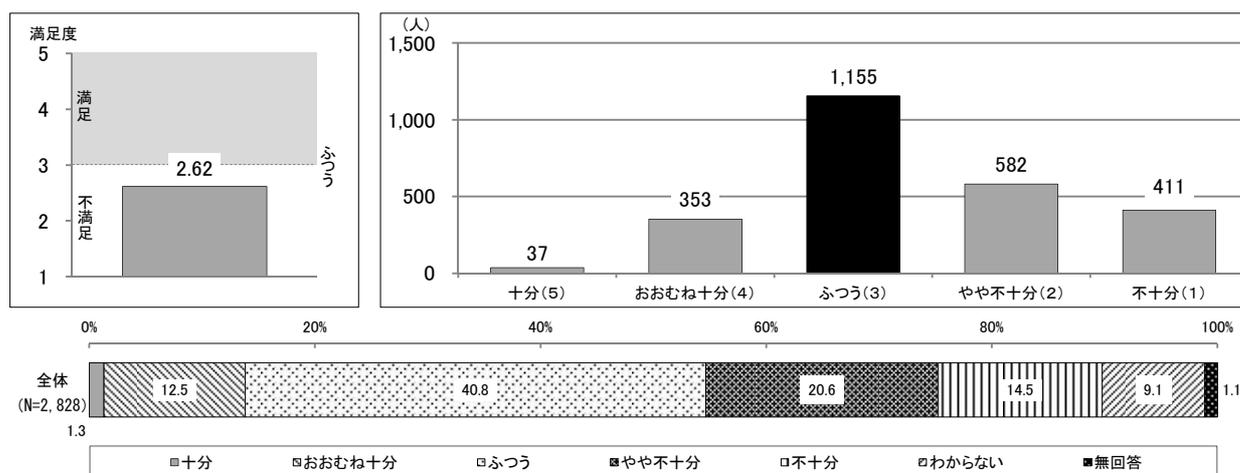
ウ 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

問 1-3 安心して子育てができる社会になっている。

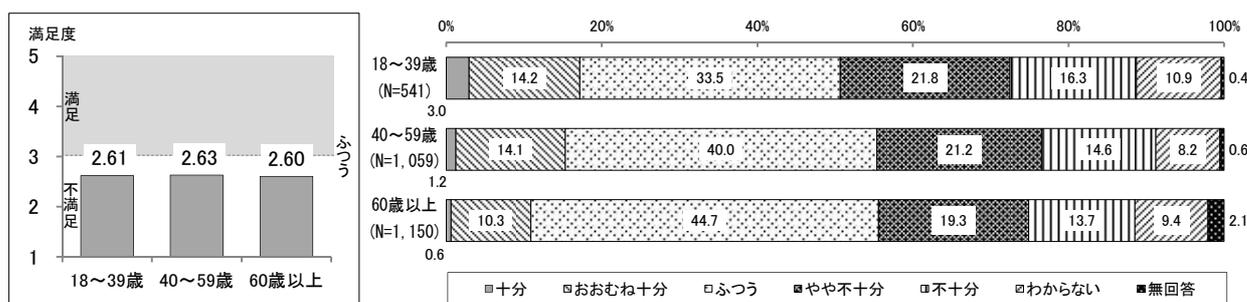
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.8%、「ふつう」は40.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は35.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は54.6%であった。



年代別では、「40～59歳」の満足度が最も高く2.63であり、不満を感じていない人の割合は55.3%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.60であり、不満を感じていない人の割合は55.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した993人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、278人(28.0%)から回答があった。

回答の一部

- 子どもを生んで働けというわりに子育てに理解がある会社がまだまだ少ない。(女性/30歳代/仙北地域)
- 仕事内容によっては休日にも仕事の方もいる。特に地方では子どもを預ける場所が少ない。(女性/40歳代/北秋田地域)
- 「子育て」は、義務教育終了段階までを指して使う言葉ではないと思う。子どもが一人前に自立していくまでの過程を支える支援は不足している。(女性/50歳代/由利地域)

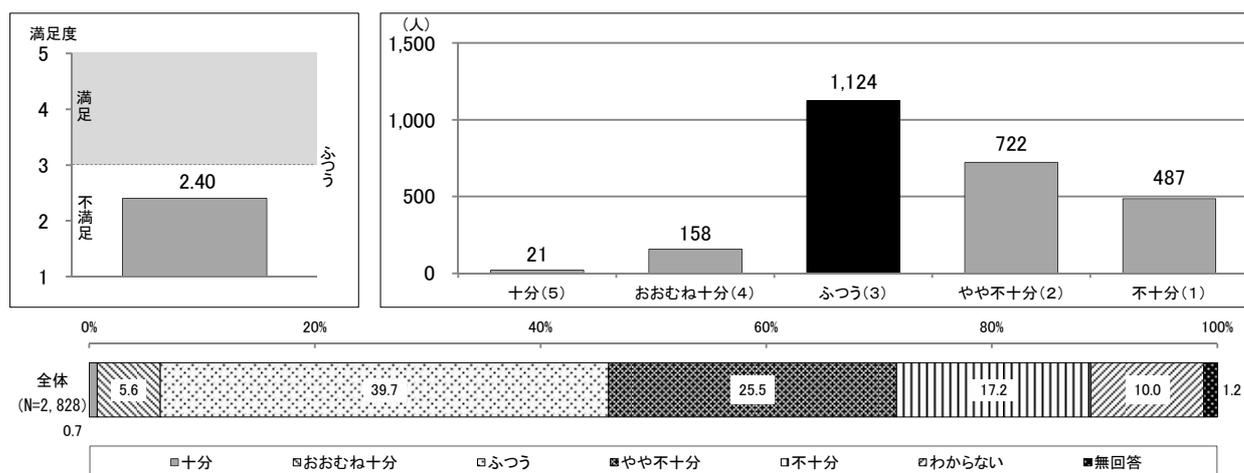
エ 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問1-4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

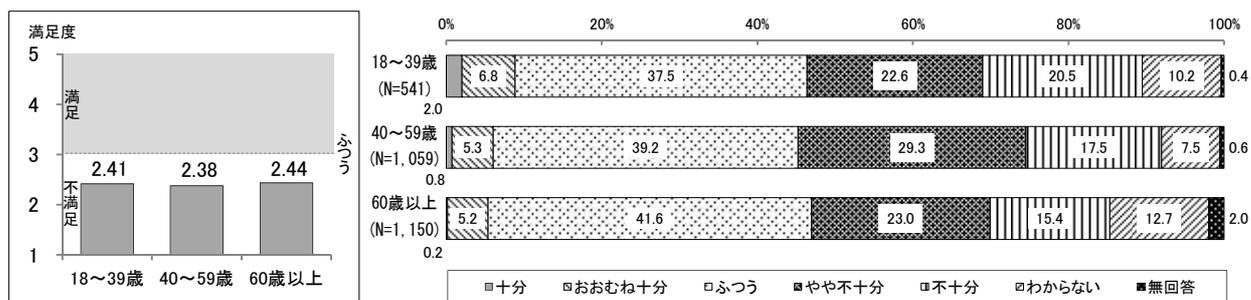
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.40で、「ふつう」の3より0.60低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.3%、「ふつう」は39.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は46.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.44であり、不満を感じていない人の割合は47.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.38であり、不満を感じていない人の割合は45.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,209人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、280人(23.2%)から回答があった。

回答の一部

- 「女性の活躍＝昇進、管理職」というような風潮があるが、私は少し違うと思う。どうしても男女で体力や性質は違うのだから、良い意味での“女性らしさ”が発揮されるような働く場や働き方がもっと広まればよいと思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 子育ては女性に負担が多いので、職場の理解や夫の協力がまだまだ不十分を感じる。(女性/40歳代/北秋田地域)
- 転勤してきた同僚から見ると村社会的な空気感が非常に強いらしい。それでは若者は定着していかないと思う。女性や若者が活躍できる場を提供することに力を入れている企業を厚く支援し、変わることへのインセンティブを与えるべき。(男性/30歳代/仙北地域)

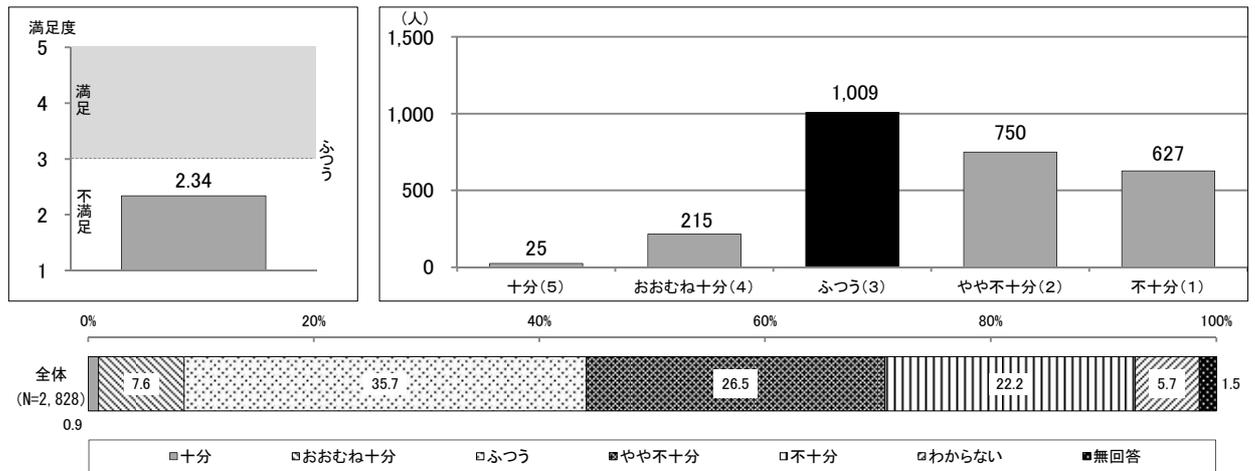
オ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

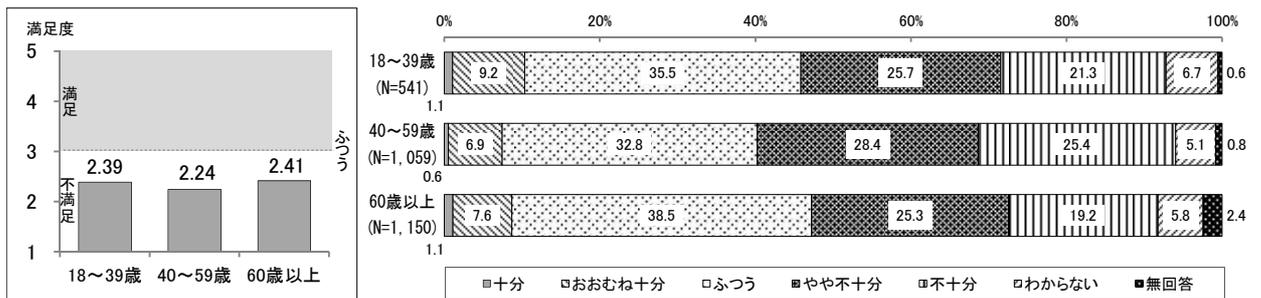
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.34で、「ふつう」の3より0.66低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.5%、「ふつう」は35.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は48.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.2%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.41であり、不満を感じていない人の割合は47.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.24であり、不満を感じていない人の割合は40.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,377人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、472人(34.3%)から回答があった。

回答の一部

- 買い物難民が加速しているように思える。店(食料品店、金融機関、ガソリンスタンド)が近くなって遠くまで行かなければならない。(男性/60歳代/北秋田地域)
- マイカー以外の交通手段が不便なため必然的に買い物も不便になる。これでは自動車免許の返納もできない。(男性/60歳代/平鹿地域)
- 全員が自らの足で買い物をする場所まで出向くということはもう限界のような気がする。必要最低限のネット利用のための高齢者向け教室を開催するなどしてネット通販の利用を促進したり、移動販売を行う企業への支援などを行っていくべき。(男性/30歳代/山北地域)

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

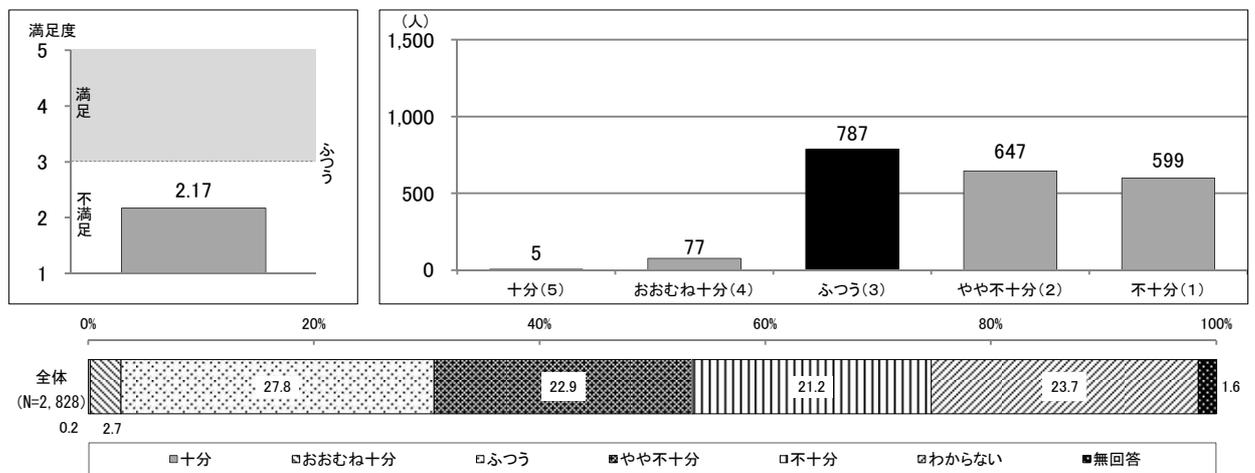
ア 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

問1-6 地域経済を牽引することができる競争力を持った企業が増えている。

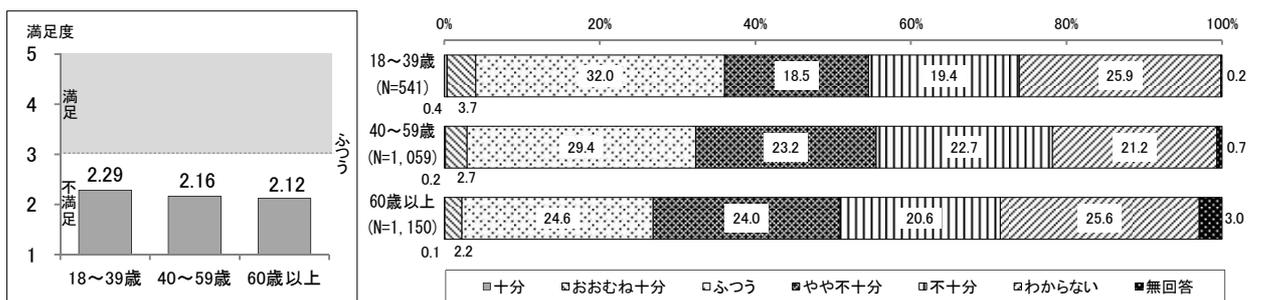
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.17で、「ふつう」の3より0.83低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.9%、「ふつう」は27.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は30.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.29であり、不満を感じていない人の割合は36.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.12であり、不満を感じていない人の割合は26.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,246人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、267人(21.4%)から回答があった。

回答の一部

- 地場というよりも誘致された企業が地域の経済を支えている。地場企業がもっと上場できたり、中央と戦えれば面白いと思う。(男性/30歳代/北秋田地域)
- 面白い独自の取組をしている企業は何か所か出てきているが、地域経済を牽引するほどの規模のものは少ないと感じる。(男性/30歳代/秋田地域)
- 若者の県外流出を食い止めるほどの競争力がある企業はまだまだ少ない。(女性/60歳代/秋田地域)

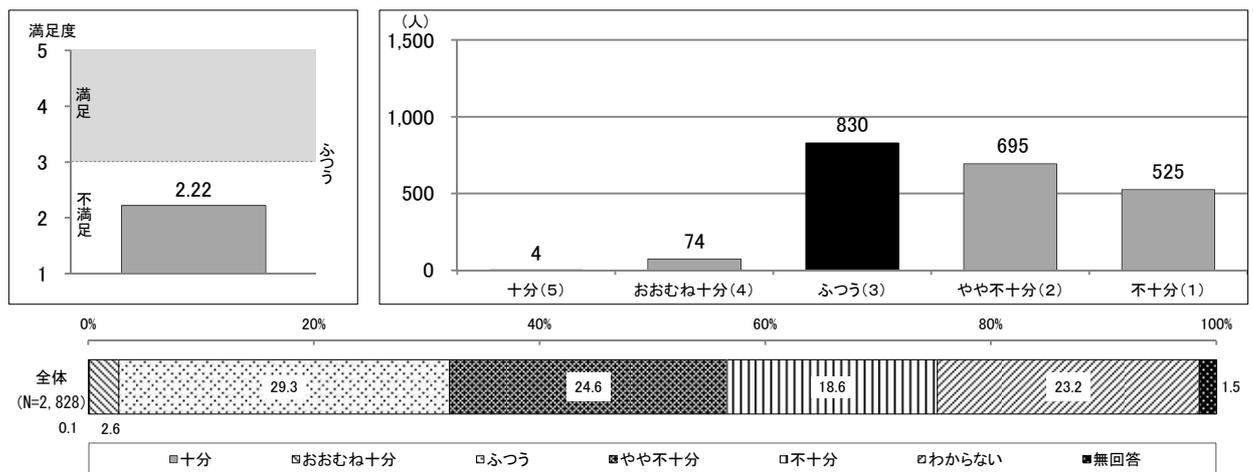
イ 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問1-7 中小企業の安定した経営が確保されている。

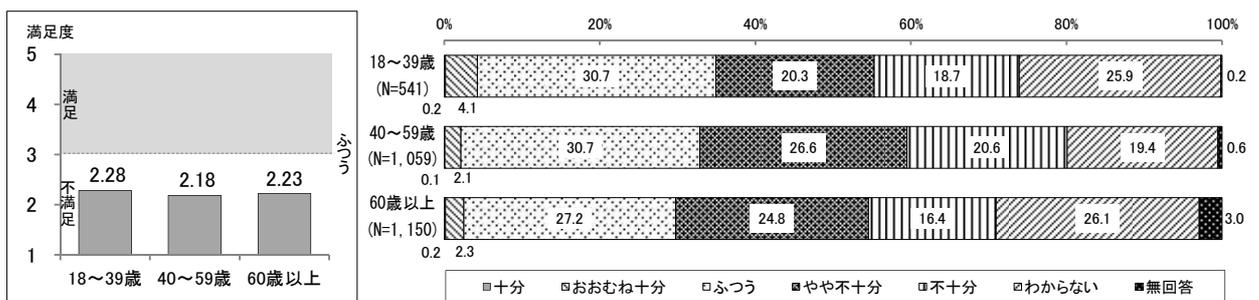
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.22で、「ふつう」の3より0.78低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.7%、「ふつう」は29.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は32.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.28であり、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.18であり、不満を感じていない人の割合は32.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,220人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、200人(16.4%)から回答があった。

回答の一部

- 地域経済が縮小していく中で、中小企業はパイの奪い合いになっている。(男性/40歳代/北秋田地域)
- 後継者不在や人手不足により、安定した経営が確保されているとは言いがたい。(男性/30歳代/仙北地域)
- 目先の状況に甘んじず、中小企業のコンプライアンス、経営方針(内容)等、体質改善が望まれる。(男性/40歳代/由利地域)

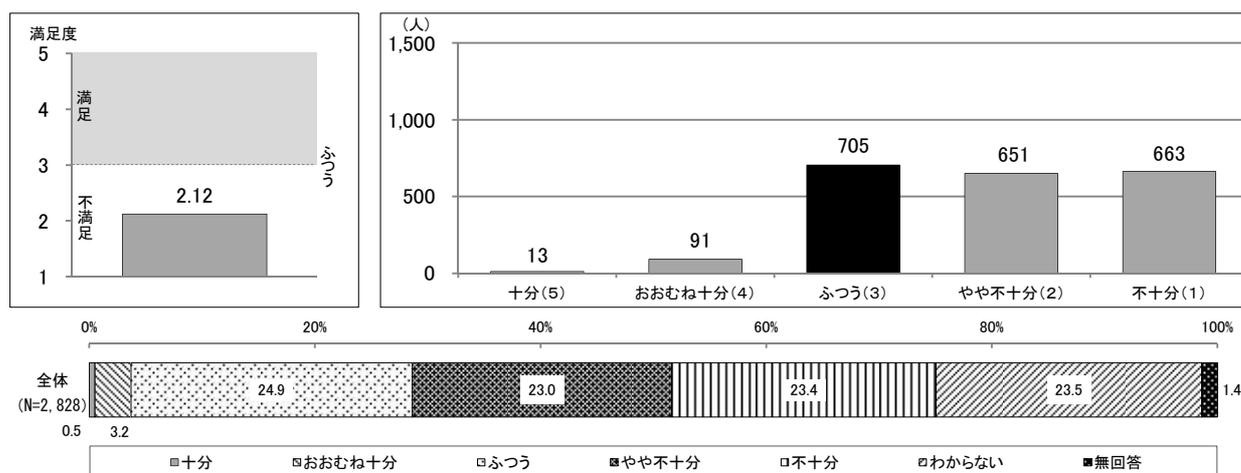
ウ 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8 企業誘致が進んでいる。

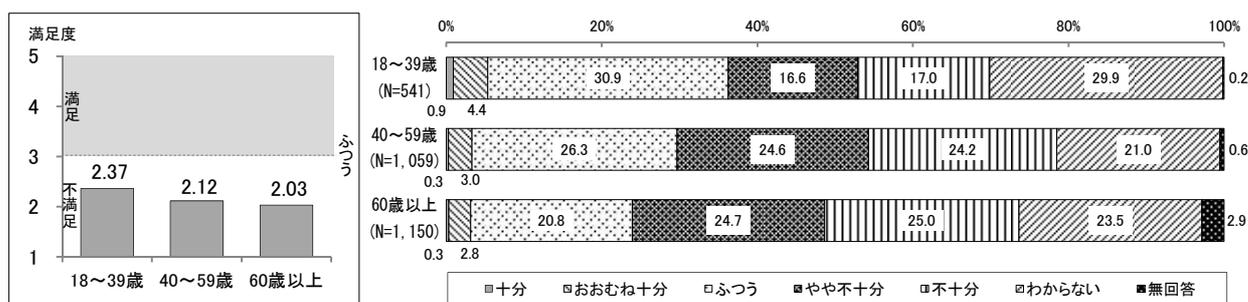
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.12で、「ふつう」の3より0.88低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.7%、「ふつう」は24.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は46.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は28.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.37であり、不満を感じていない人の割合は36.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.03であり、不満を感じていない人の割合は23.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,314人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、224人(17.0%)から回答があった。

回答の一部

- 大手企業の工場、支店誘致の話を受けない。(男性/30歳代/秋田地域)
- 雇用の拡大につながる企業誘致を望む。県内の大学に進学した学生が働いてみたいと思う企業、希望する職場の調査が必要。(女性/70歳代/秋田地域)
- 企業誘致は、秋田市など県の中心部では多いだろうが、他の地域などはなかなか増えているように思えない。(女性/30歳代/北秋田地域)

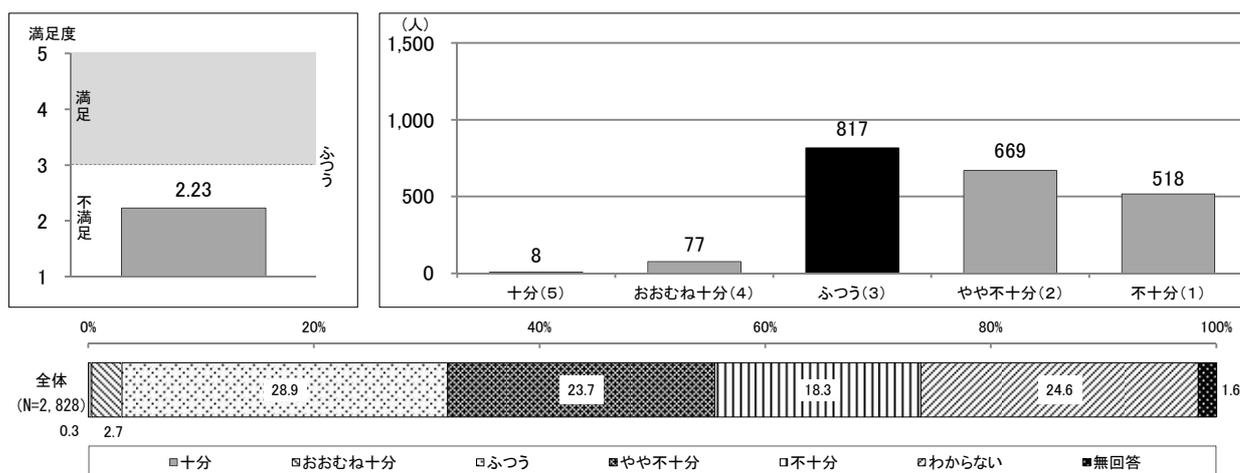
エ 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

問1-9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

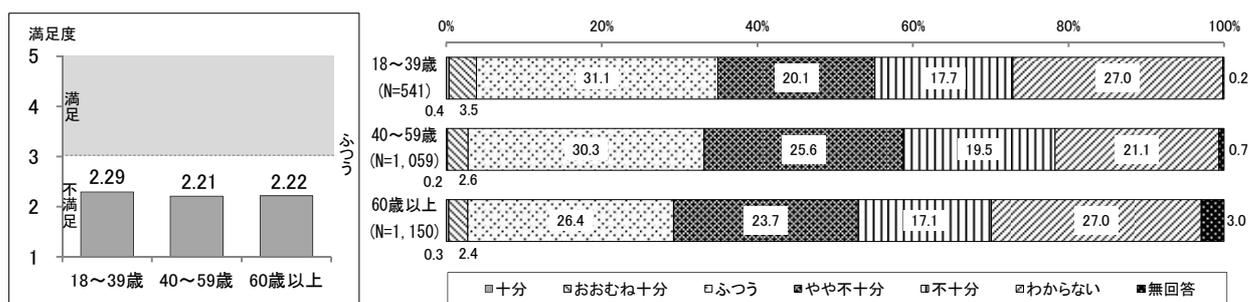
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.23で、「ふつう」の3より0.77低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.0%、「ふつう」は28.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は31.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.29であり、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.21であり、不満を感じていない人の割合は33.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,187人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、183人(15.4%)から回答があった。

回答の一部

- 人材の確保、育成には力を入れているが、求人をして来ないのが現状。(男性/50歳代/鹿角地域)
- 若者が県外に流出しているため人材の確保ができておらず、育成も進んでいない。(男性/50歳代/秋田地域)
- 県内に残る若者が少なくなり、また人手が不足する中、新人が大切にされ、仕事に対する意識が低くなって仕事の質が下がっているのではないかとと思う。(女性/30歳代/秋田地域)

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

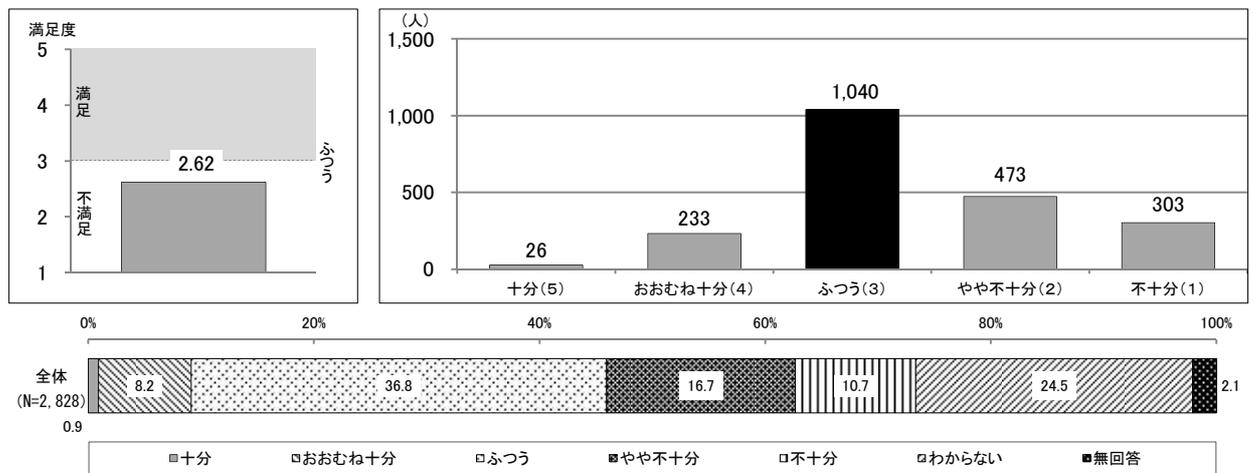
ア 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問1-10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

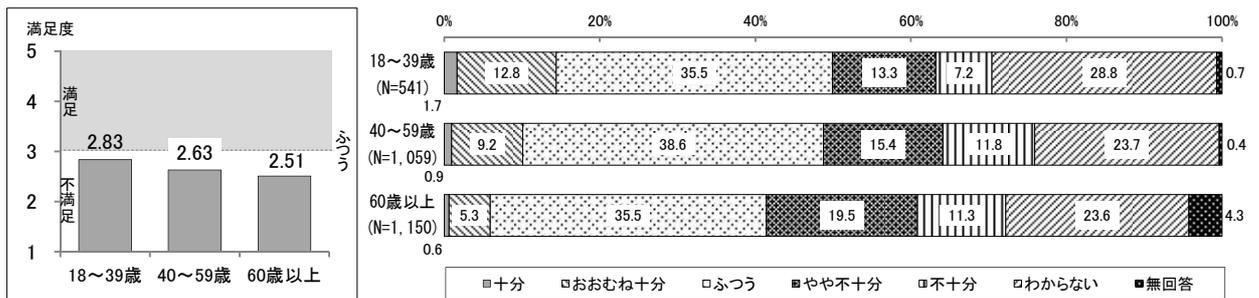
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.1%、「ふつう」は36.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は45.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.83であり、不満を感じていない人の割合は50.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.51であり、不満を感じていない人の割合は41.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した776人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、204人(26.3%)から回答があった。

回答の一部

- 若者が農林水産業で働きにくい環境になっている。また、高齢化が進んでいるため今後は衰退していく気がする。若者が働きやすい環境づくりが必要だと思う。(男性/20歳代/仙北地域)
- 耕作放棄地が増え、働く人の高齢化、後継者不足で維持が難しくなっている。(女性/30歳代/由利地域)
- 一次産業の就業人口が減少している。特に中山間地域については限界集落が増加して、いずれ無居住地域になるのではないかと。外国人労働者の導入で解決するものでもない。もっと根本的な対策を検討すべき。(男性/70歳以上/秋田地域)

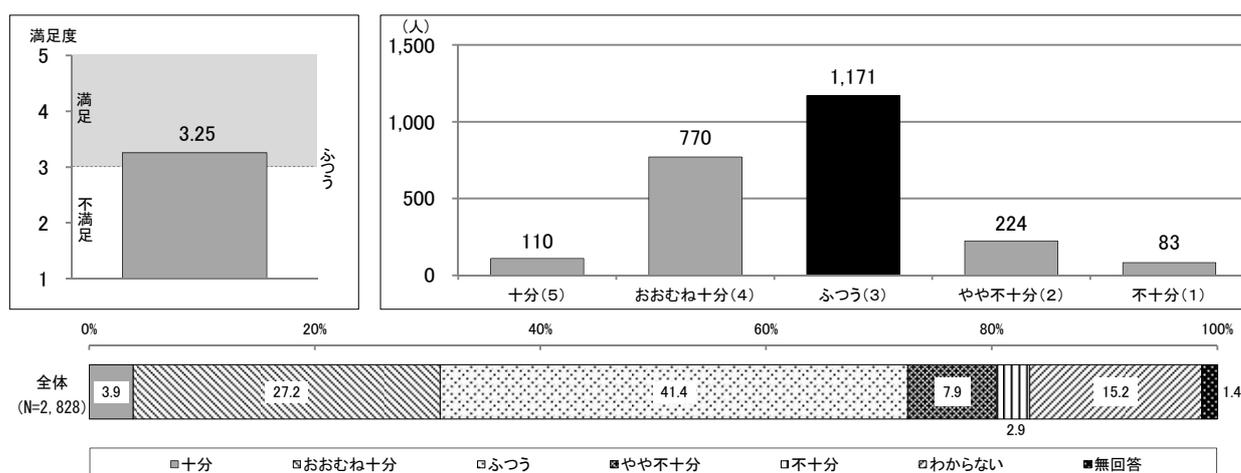
イ 複合型生産構造への転換の加速化

問1-11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

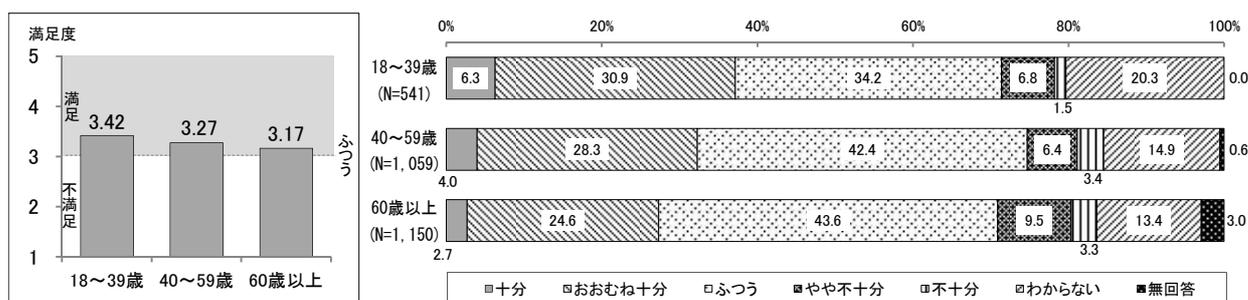
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.25で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は31.1%、「ふつう」は41.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は72.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.42であり、不満を感じていない人の割合は71.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.17であり、不満を感じていない人の割合は70.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した307人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、57人(18.6%)から回答があった。

回答の一部

- 差別化されたものが秋田牛以外にない。また、加工品で付加価値をつける取組がない。(男性/60歳代/秋田地域)
- 農家の人頑張っているが、県外の人には売り込み不足のため知名度が少ないと思う。もっとアピールしてはどうかと思う。(男性/50歳代/秋田地域)
- 県内で購入する人へのアピールが足りないように思う。スーパー等なるべく秋田県産のものを購入したいと思うが、県外産が多い。(女性/60歳代/仙北地域)

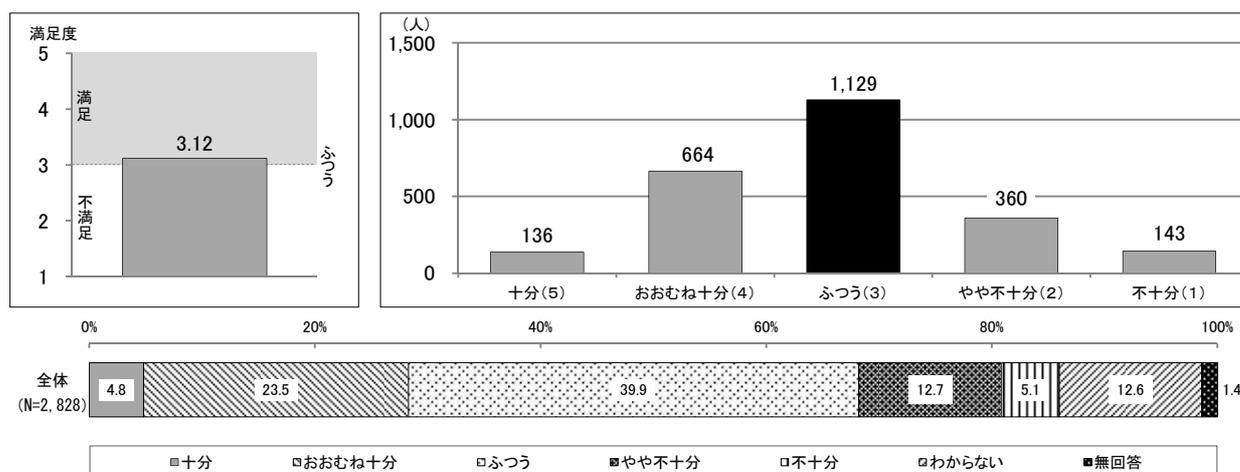
ウ 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

問 1-12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

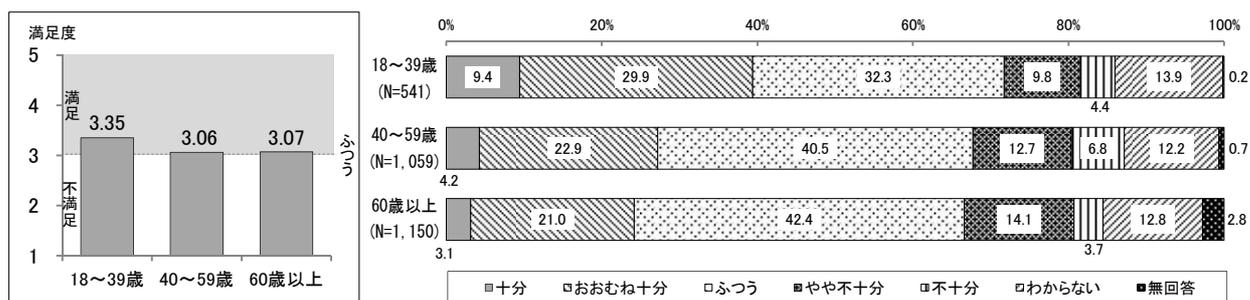
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.12で、「ふつう」の3より0.12高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は28.3%、「ふつう」は39.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.35であり、不満を感じていない人の割合は71.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.06であり、不満を感じていない人の割合は67.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した503人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、157人(31.2%)から回答があった。

回答の一部

- 全国的に新しい品種がどんどん出てきている。あきたこまちは美味しいがインパクトは少なくなってきたと感じる。(男性/40歳代/鹿角地域)
- 「あきたこまち」というネームバリューはあるが、プラスアルファの価値を提供できていない。他県のブランド米とどう違うのかが伝わっていない。(男性/30歳代/秋田地域)
- アピールの仕方や、宣伝の仕方、購買意欲をかきたてる取組が不足している。(女性/60歳代/秋田地域)

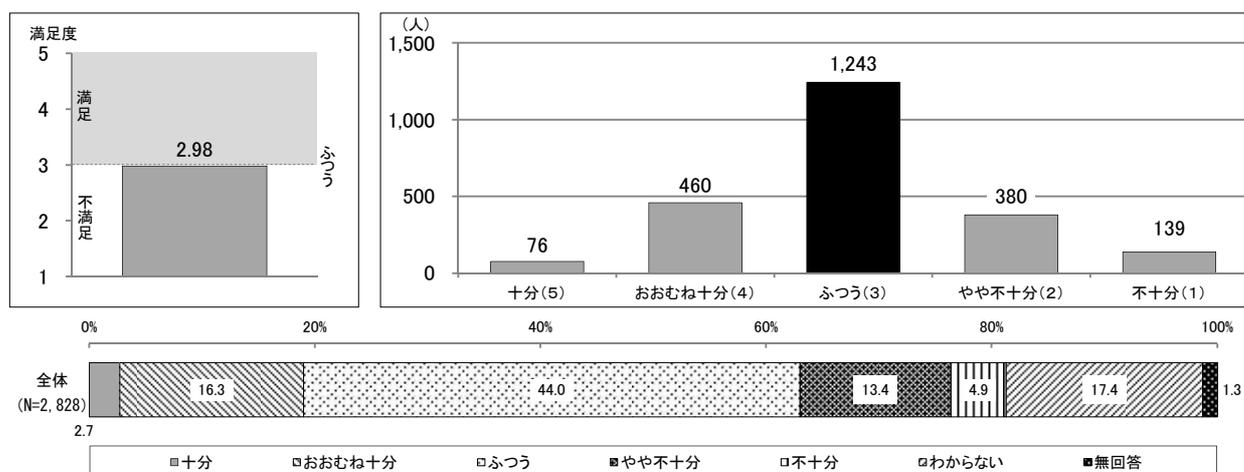
エ 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

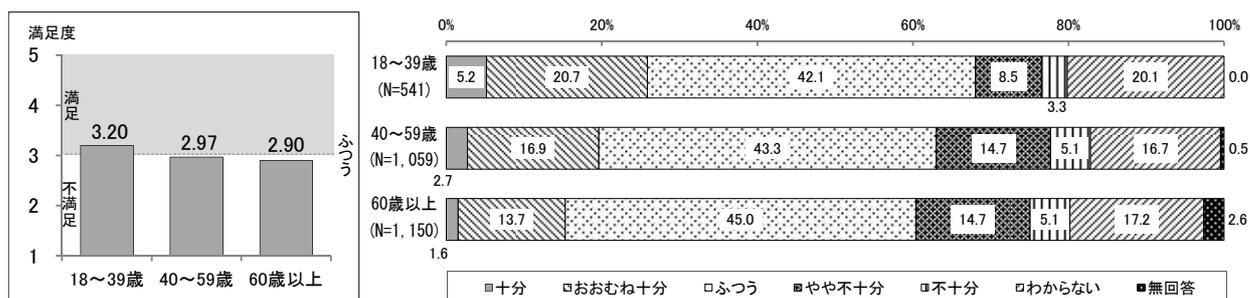
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.98で、「ふつう」の3より0.02低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.0%、「ふつう」は44.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は63.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.20であり、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.90であり、不満を感じていない人の割合は60.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した519人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、100人(19.3%)から回答があった。

回答の一部

- 販売するためのPRや知名度が不足である。インターネットで売るなど、時代に合った方法を取り入れるようにしてほしい。(女性/50歳代/山本地域)
- 日本酒、いぶりがっこなどは秋田の代表的な商品で知名度は上がっているようであるが、他は規模感も小さく、全国に流通している商品は少ないと感じている。(男性/60歳代/仙北地域)
- 加工品の県外出荷を増やすため、輸送費の補助が必要。(男性/70歳以上/秋田地域)

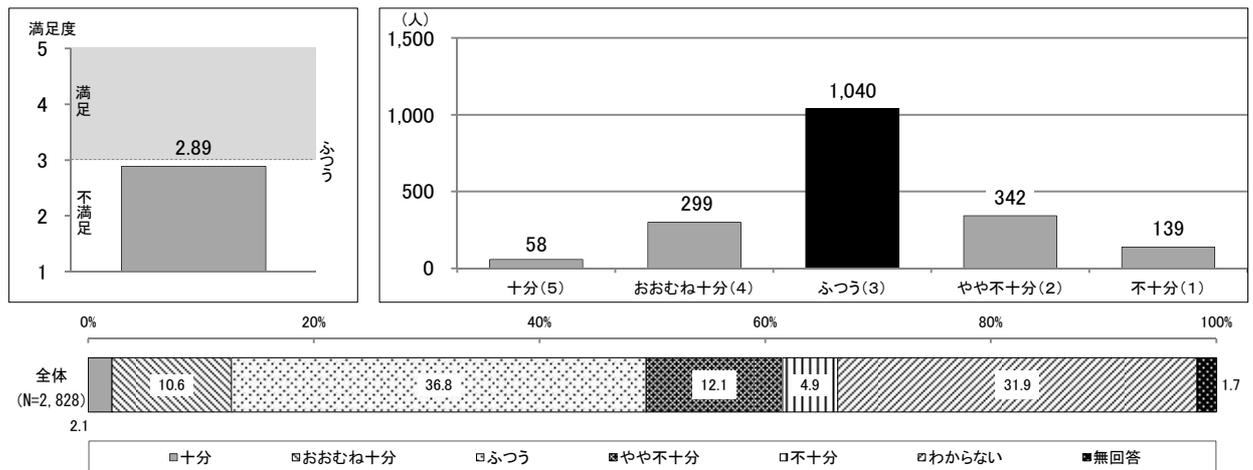
オ 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問1-14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

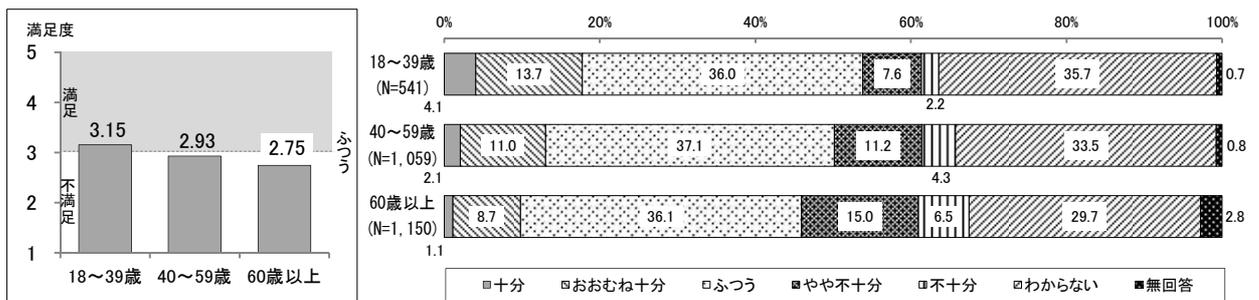
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.89で、「ふつう」の3より0.11低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.7%、「ふつう」は36.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は49.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.15であり、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.75であり、不満を感じていない人の割合は45.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した481人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、84人(17.5%)から回答があった。

回答の一部

- 山を持つ人には木を売っても全然お金が残らない。(男性/70歳以上/由利地域)
- 生産量については目に見えて増大しているように感じるが、利活用については進んでいるように感じられない。(男性/30歳代/仙北地域)
- 自宅に使うには高価すぎるので、良さをアピールして県外に売るべき。(男性/40歳代/鹿角地域)

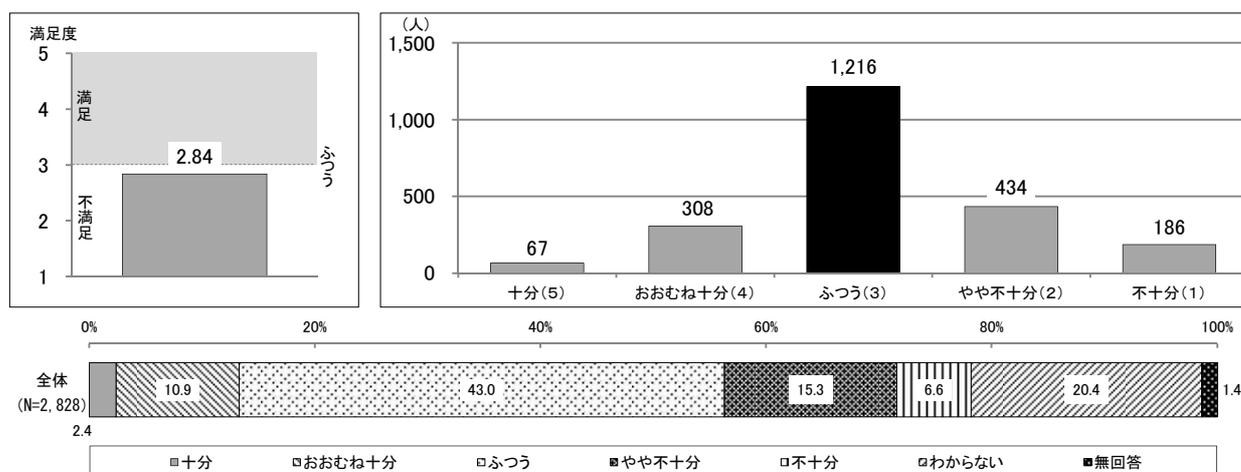
カ つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

問1-15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

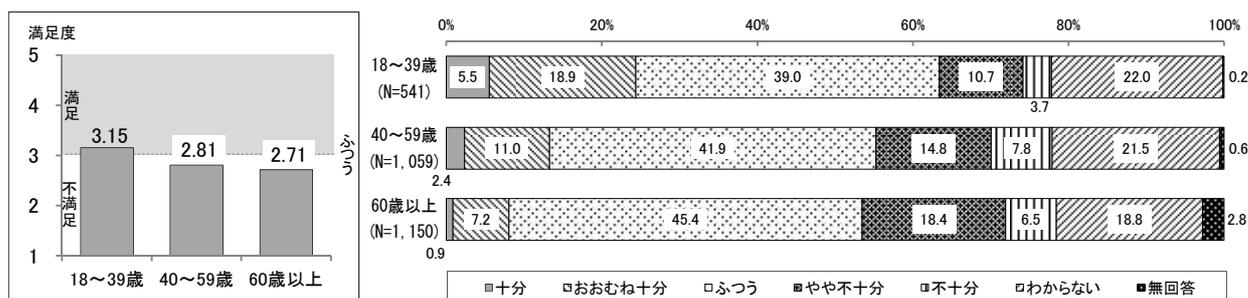
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.84で、「ふつう」の3より0.16低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.3%、「ふつう」は43.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.15であり、不満を感じていない人の割合は63.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.71であり、不満を感じていない人の割合は53.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した620人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、143人(23.1%)から回答があった。

回答の一部

- ハタハタは秋田県の魚として有名だがマダイ、ヒラメ、サケなどは県民でさえ認知度が低い。(男性/50歳代/由利地域)
- 獲れた魚(獲れる魚)が口に入っている感じがあまりしない。スーパーを見ても圧倒的に県外産だ。(女性/40歳代/秋田地域)
- 秋田県産のアピールが足りない。県内で安くおいしく食べられる店がなさすぎる。観光価格の高いイメージが定着している。(男性/50歳代/秋田地域)

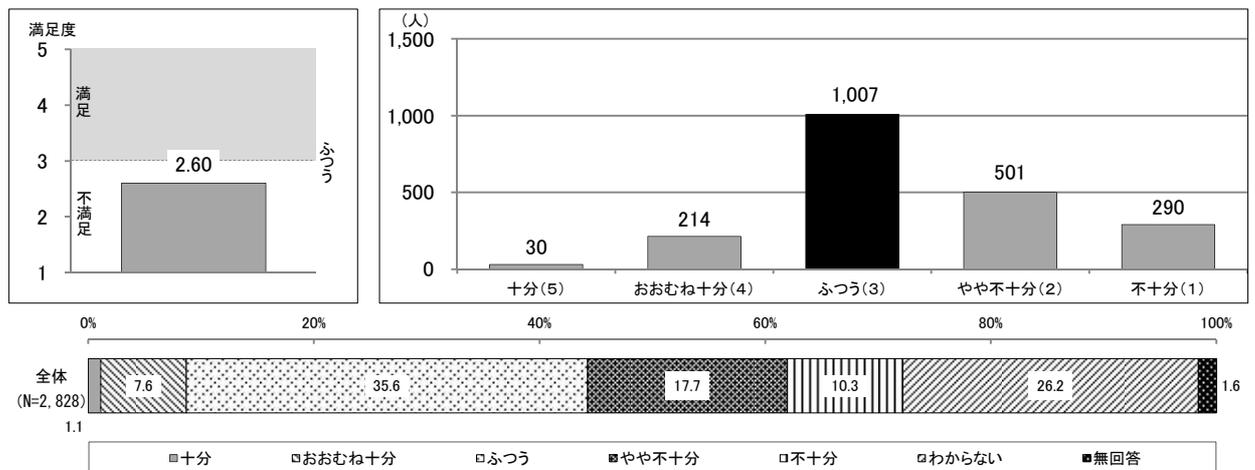
キ 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

問 1-16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

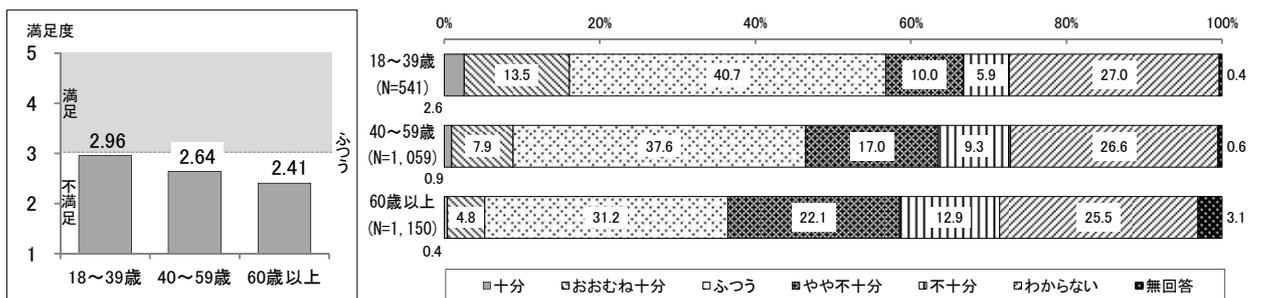
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.7%、「ふつう」は35.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.96であり、不満を感じていない人の割合は56.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.41であり、不満を感じていない人の割合は36.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した791人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、169人(21.4%)から回答があった。

回答の一部

- 農地や森林などを管理できない人が多く、荒れているところが多く目立つ。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 高齢化が進み後継者が不足している。(男性/50歳代/仙北地域)
- 普段生活していて、森林を守る活動をしているという情報は入ってこない。もっと宣伝して、ボランティアでなく、協力した人へのメリットがあればよいと思う。(女性/30歳代/秋田地域)

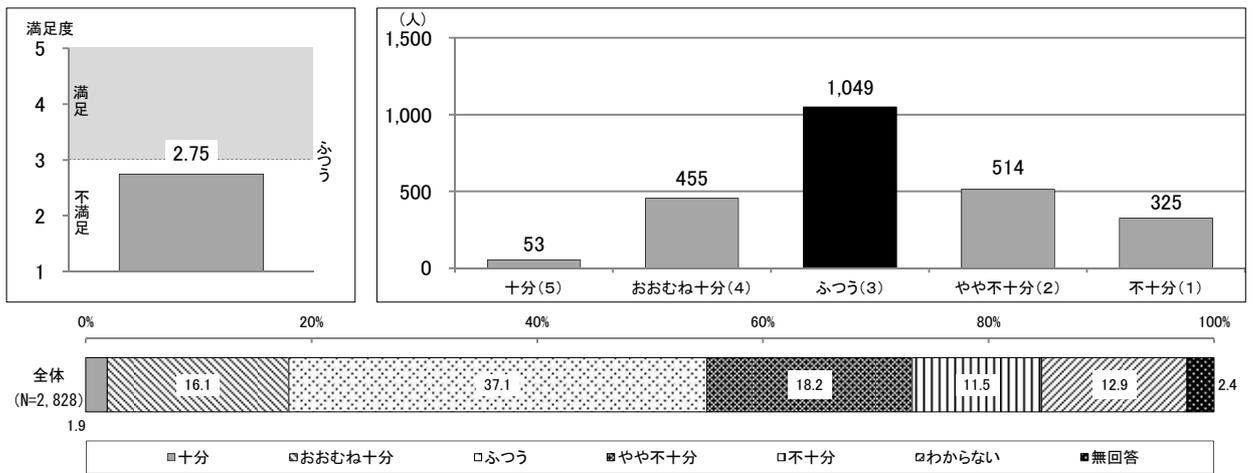
(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略について
 ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問1-17 国内外から観光誘客が進んでいる。

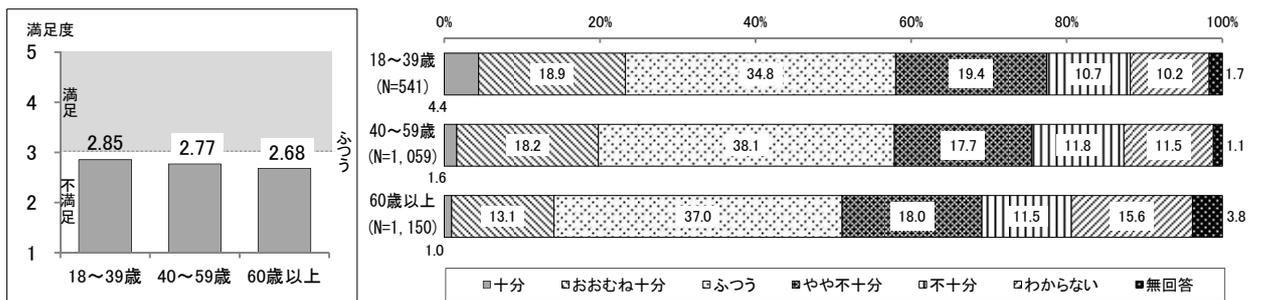
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.75で、「ふつう」の3より0.25低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.0%、「ふつう」は37.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は55.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.85であり、不満を感じていない人の割合は58.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.68であり、不満を感じていない人の割合は51.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した839人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、209人(24.9%)から回答があった。

回答の一部

- 素晴らしい遺産や自然がありながら、ただ存在するだけの状態のものが多い。周りの環境を美化、整備することと観光客を迎えるための飲食、宿泊を充実させる必要があると思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 観光客を増やすには既存の良いもののアピール、地元の人しか分からない良いものの掘り起こし、新しい魅力的なコンテンツ作りが必要。秋田の広告やアピールはターゲットを絞りきれていない。(男性/30歳代/秋田地域)
- 一過性のアピールをしても不十分と感じる。県外、国外に向けて継続して秋田の魅力を発信する工夫が必要。(男性/50歳代/秋田地域)

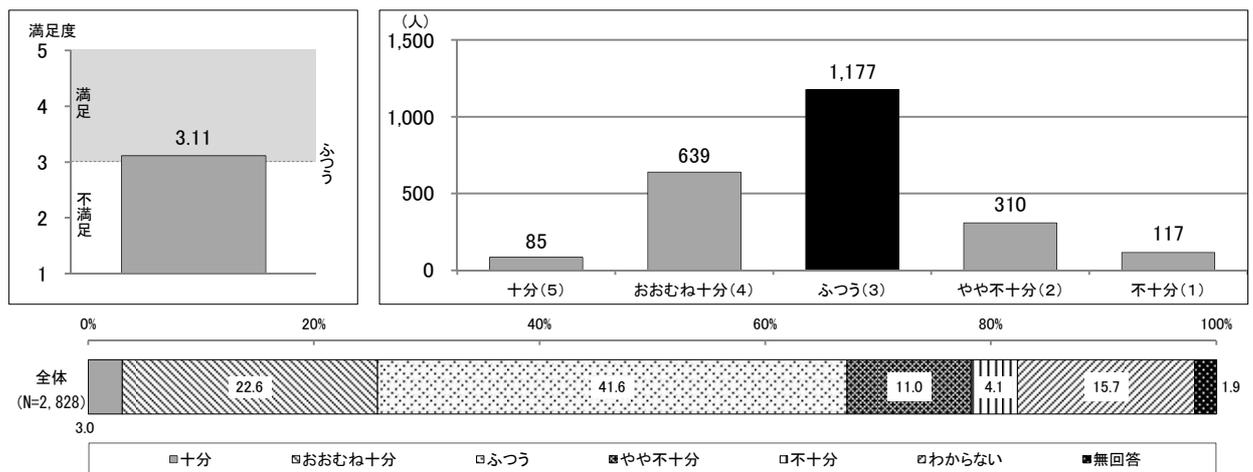
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問1-18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

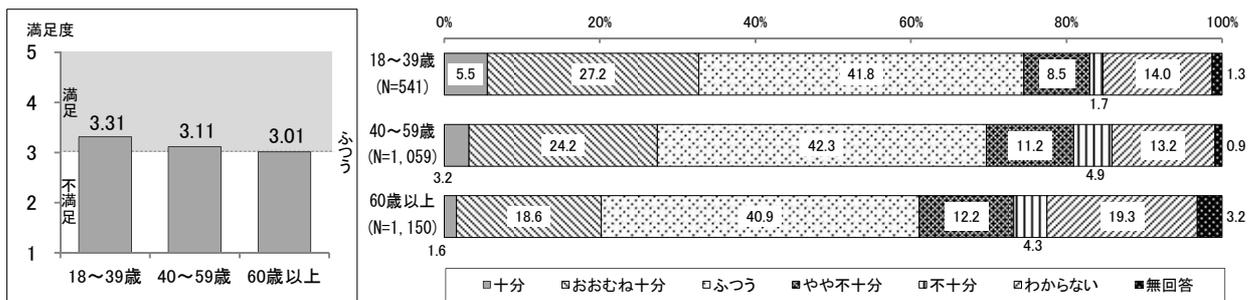
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.11で、「ふつう」の3より0.11高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は25.6%、「ふつう」は41.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は67.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.31であり、不満を感じていない人の割合は74.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.01であり、不満を感じていない人の割合は61.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した427人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、77人(18.0%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田の日本酒はおいしいのに、関東より西にいくとほとんど見ないように思う。新潟のお酒はよく見る。(女性/50歳代/秋田地域)
- テレビで酒を取り上げられてから売り上げが伸びたとか…。マスコミ等で取り上げられなければ良い物も知られない。他県に負けている。(女性/50歳代/秋田地域)
- PR不足なのか、“秋田”というイメージが付く食品は少ないと感じている。ジュンサイやトンプリなどは珍品のイメージが先行し、流通量が多いとはいえないのでないか。(男性/60歳代/仙北地域)

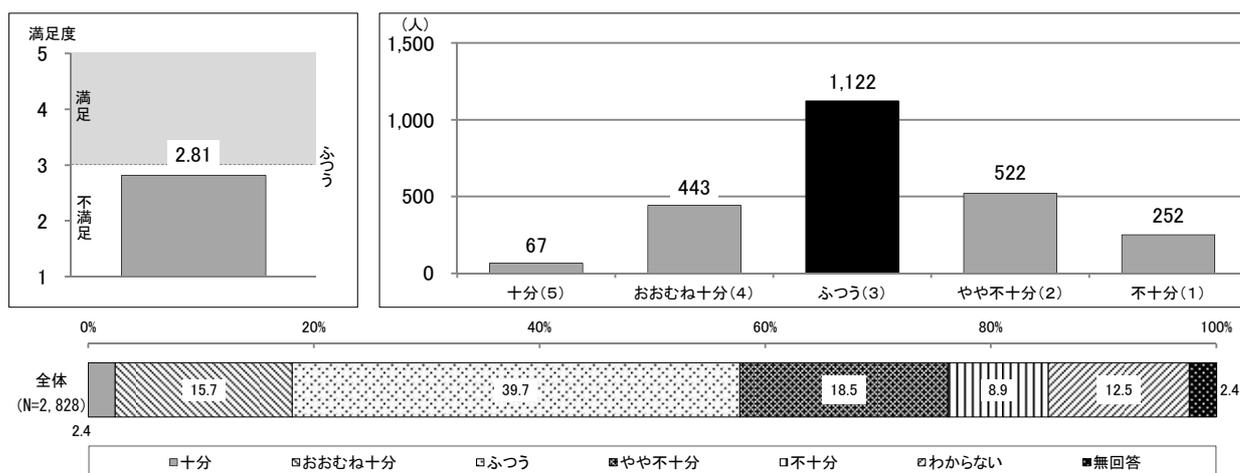
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

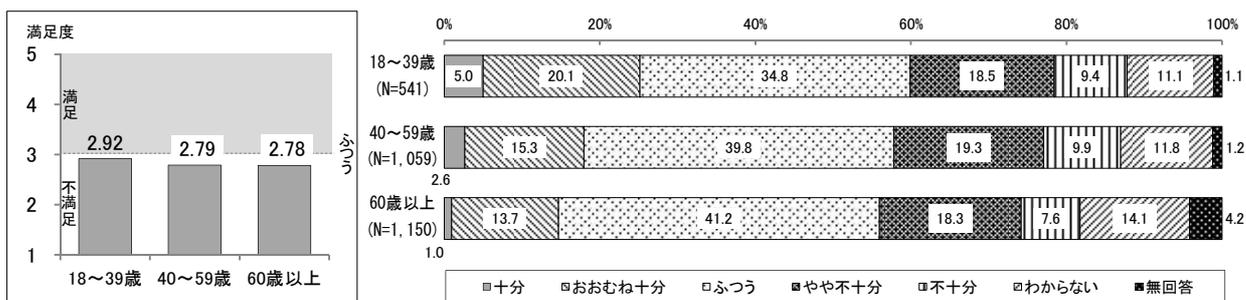
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.81で、「ふつう」の3より0.19低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.1%、「ふつう」は39.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.92であり、不満を感じていない人の割合は59.9%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.78であり、不満を感じていない人の割合は55.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した774人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、134人(17.3%)から回答があった。

回答の一部

- とにかくPRをがんばっていただきたい。自慢したい文化・食文化が多々あるので、他県に負けぬようインパクトのあるPRを…。(女性/60歳代/鹿角地域)
- Facebook等のSNSの発信内容が薄い気がする。もう少しキレイな写真を使用したり、地域ごとにセットにして、初めてでも想像しやすい発信をするべきだと思う(例:秋田市なら秋田市のおまつり→グルメ→おススメスポット等)。また、外国語版観光HP(あきたファン・ドット・コム)の情報が古すぎる。更新してほしい。(女性/20歳代/秋田地域)
- 秋田県民自身にも魅力を多く発信すれば、県外への人口流出の防止に少しでも歯止めがかかるのではないかと。(女性/10歳代/平鹿地域)

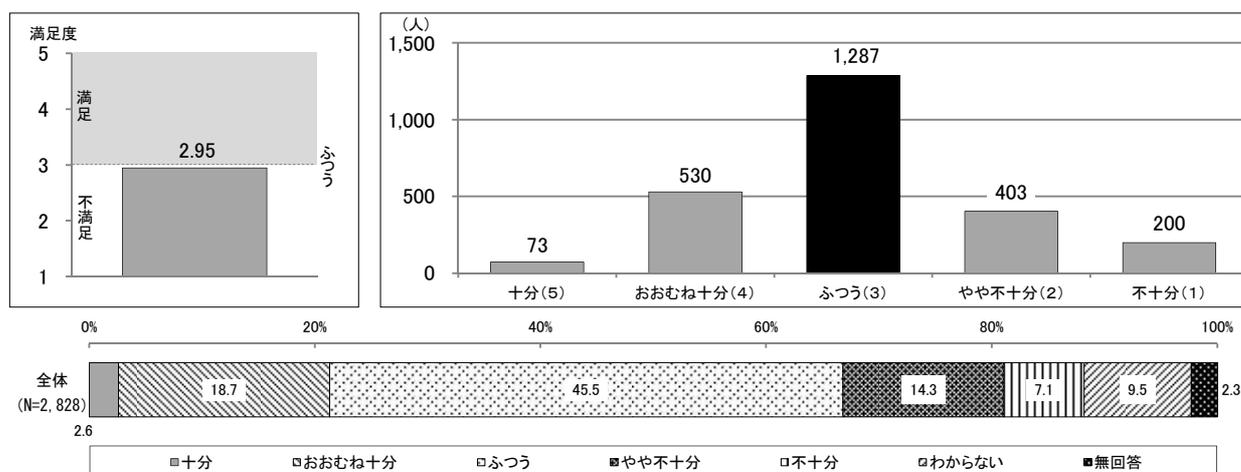
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

問 1-20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

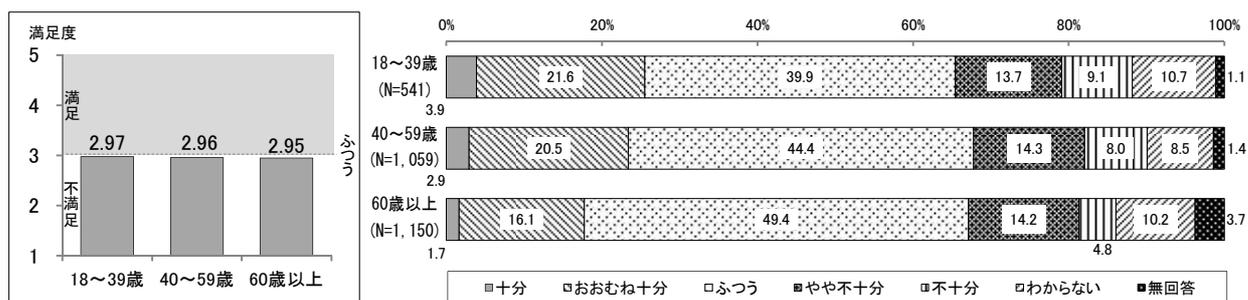
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.95で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.3%、「ふつう」は45.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は66.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.97であり、不満を感じていない人の割合は65.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.95であり、不満を感じていない人の割合は67.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した603人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、120人（19.9%）から回答があった。

回答の一部

- 少子化で子どもたちに好きなスポーツを継続させてあげるのが難しい。(女性/60歳代/仙北地域)
- 中高生の部活動を除いては、ジョギング、ランニング以外、スポーツに関する活動がそれほど見られない。(男性/40歳代/平鹿地域)
- 競技スポーツの振興も必要だが、「健康寿命日本一」を目指す取組など健康運動に接する機会を増やすことが必要。(男性/60歳代/仙北地域)

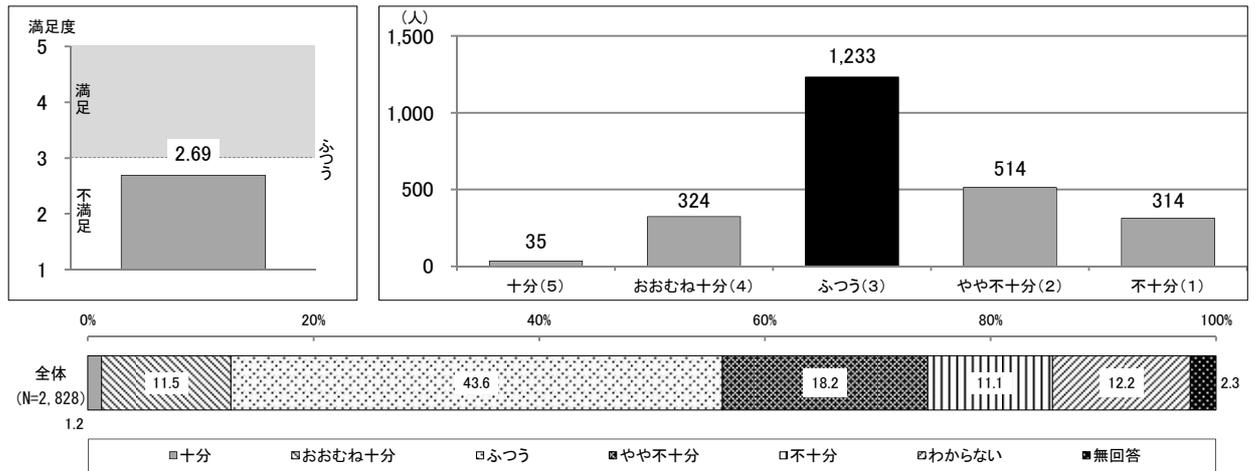
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

問 1-21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

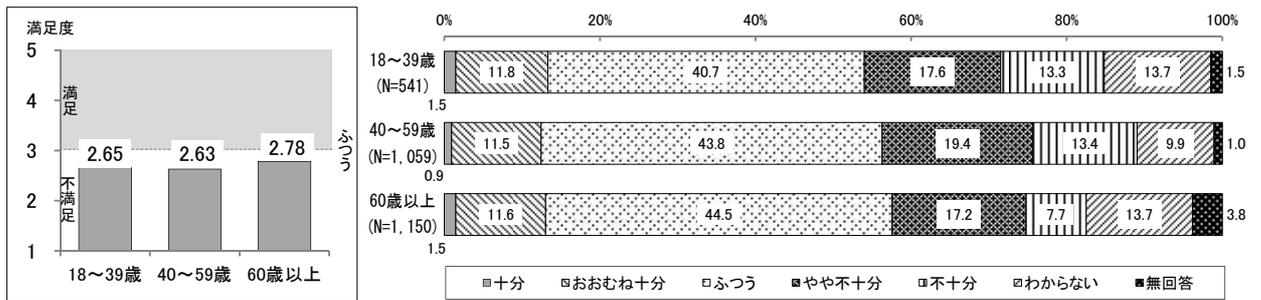
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.7%、「ふつう」は43.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.3%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.78であり、不満を感じていない人の割合は57.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63であり、不満を感じていない人の割合は56.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した828人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、143人(17.3%)から回答があった。

回答の一部

- 秋道の道路整備は遅い。山形は通るたびに4車線化や高速ができています。(男性/50歳代/秋田地域)
- 道路ネットワークは整備されているが、前からある道路の整備がおろそかになっている気がする。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 道路の舗装状態が他県と比べて悪いと感じる。(男性/60歳代/平鹿地域)

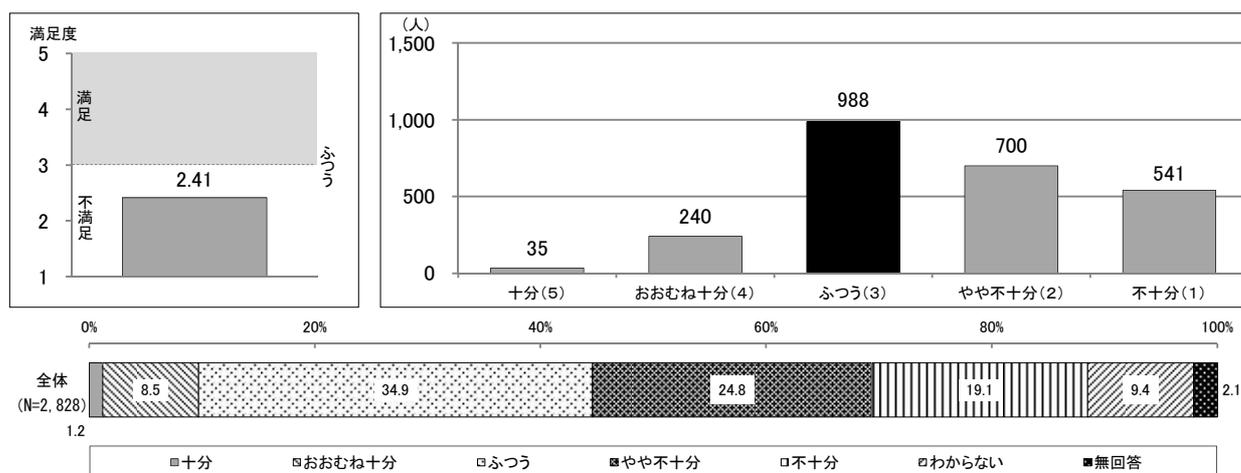
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

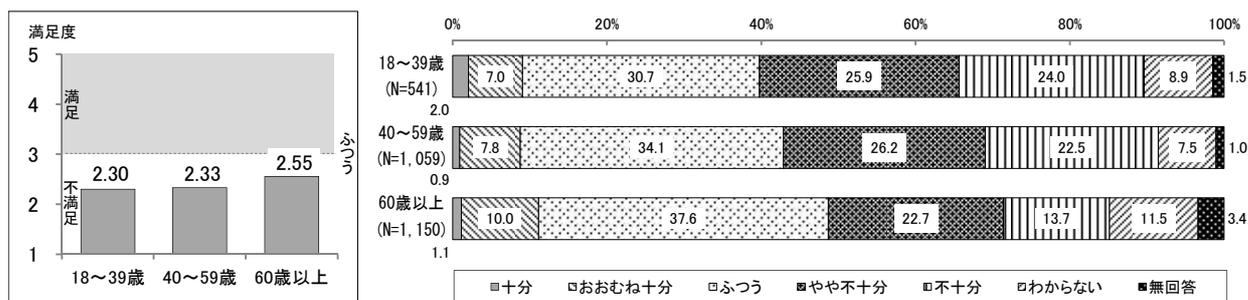
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.7%、「ふつう」は34.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.55であり、不満を感じていない人の割合は48.7%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.30であり、不満を感じていない人の割合は39.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,241人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、298人(24.0%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田、東京間の新幹線の所要時間を短縮してもらいたい。地域によっては21時台には終電、終バスもなくなり、駅前にも人気なくなる。(女性/40歳代/雄勝地域)
- 大館能代空港は近いが便数が少ないため、利用する機会に限られる。(女性/20歳代/北秋田地域)
- 公共交通機関とはいえ民間企業なので、不採算路線や本数を減らして赤字を回避するのは分かるが、鉄道やバスの本数が少ない。利便性が悪いと利用者の増加にはつながらない。(男性/30歳代/秋田地域)

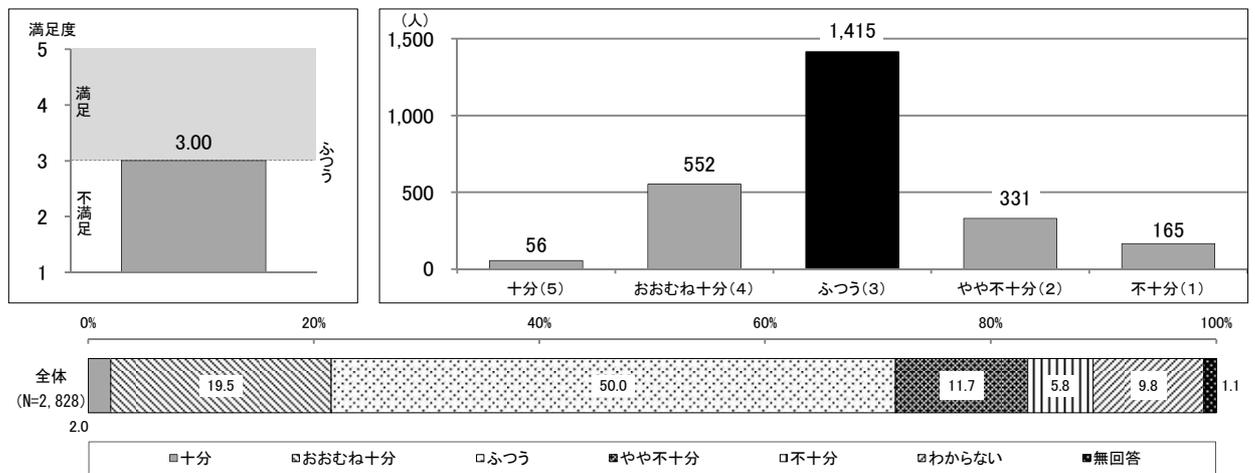
(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について
 ア 健康寿命日本一への挑戦

問1-23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

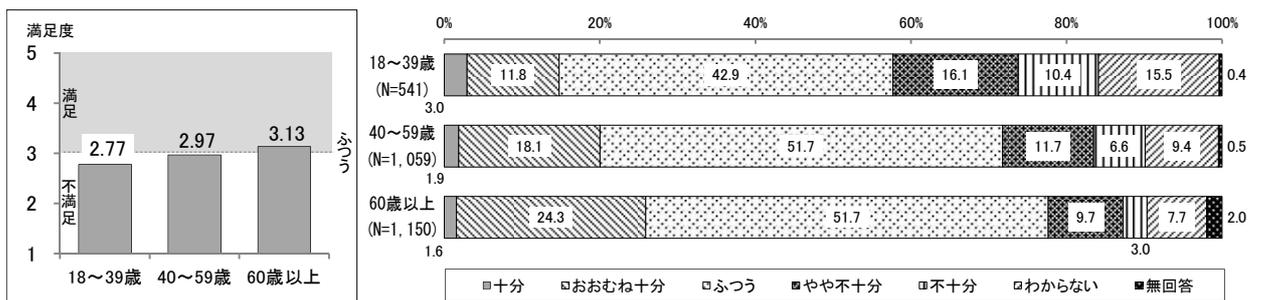
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3となった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.5%、「ふつう」は50.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は71.5%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.13であり、不満を感じていない人の割合は77.6%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.77であり、不満を感じていない人の割合は57.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した496人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、105人(21.2%)から回答があった。

回答の一部

- 個人のマナーによるところも大きいですが、受動喫煙を受けることが多い。喫煙所の数や質(密閉度が低い)を上げてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 自分の健康に関心、知識がない人がまだまだ多い。(女性/30歳代/仙北地域)
- 食事(塩分)とタバコの2点を改善できれば「健康寿命日本一」の達成に近づく。タバコは規制されているが塩分は野放しの感が否めない。食事を提供する業者への指導や規制が必要。(男性/70歳以上/秋田地域)

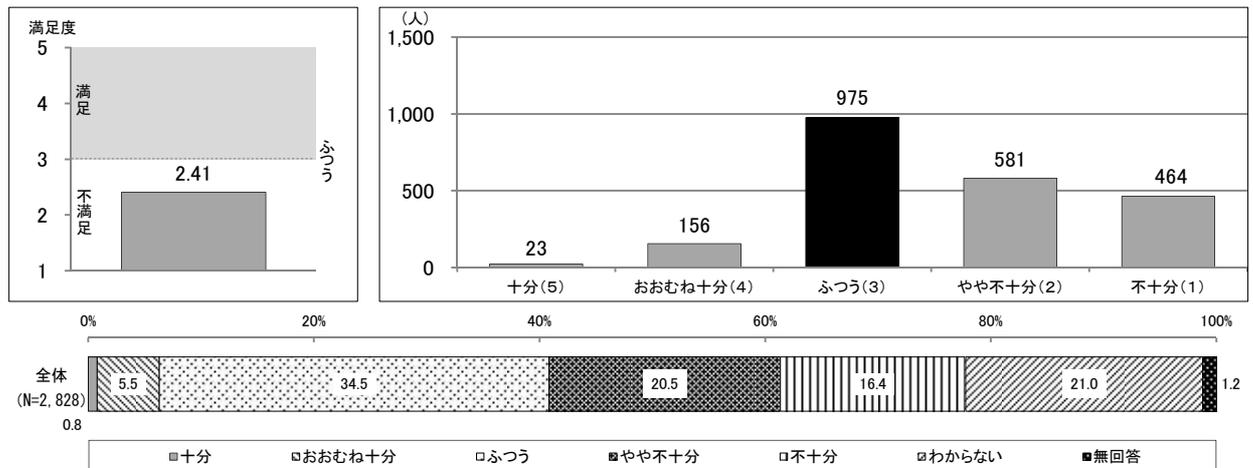
イ 心の健康づくりと自殺予防対策

問 1-24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

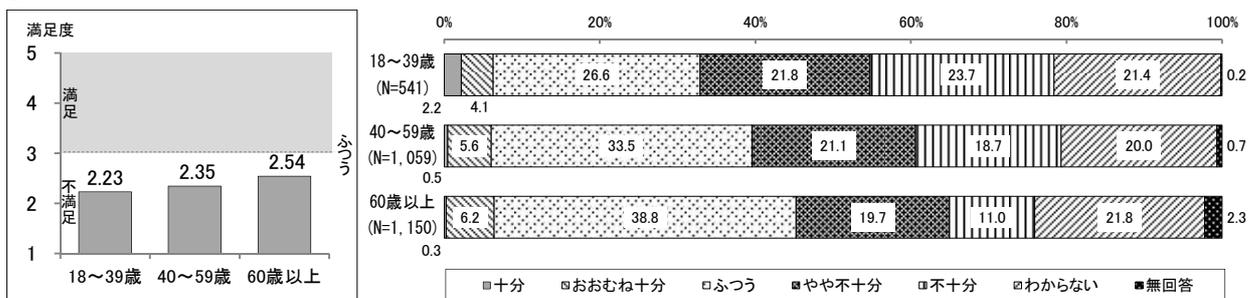
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.3%、「ふつう」は34.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は40.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.54であり、不満を感じていない人の割合は45.3%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.23であり、不満を感じていない人の割合は32.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,045人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、239人(22.9%)から回答があった。

回答の一部

- どこに・どういった手段で相談すればいいのかがあまり知られていないように思う。自殺を考えるほどの悩みを抱えた人には早急な対応が求められるので、早急に対策を考えてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 県民性として「誰かに知られたら恥」と思って悩んでしまう人が多いと思う。家族間トラブルが多い。どこに相談すればいいのかわからない。(女性/40歳代/仙北地域)
- もっと気楽に相談できる方法があればよい。(男性/70歳以上/秋田地域)

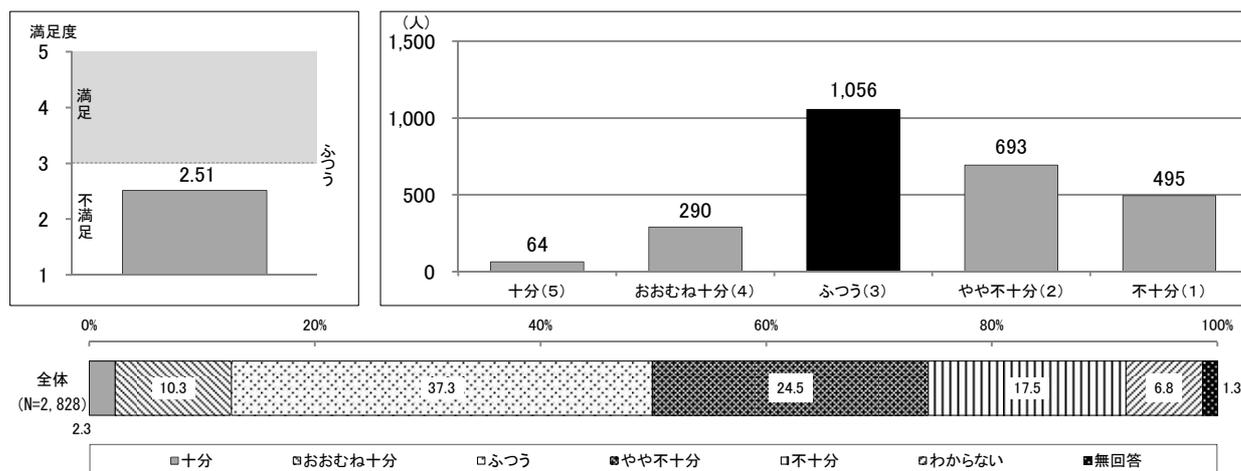
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

問1-25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

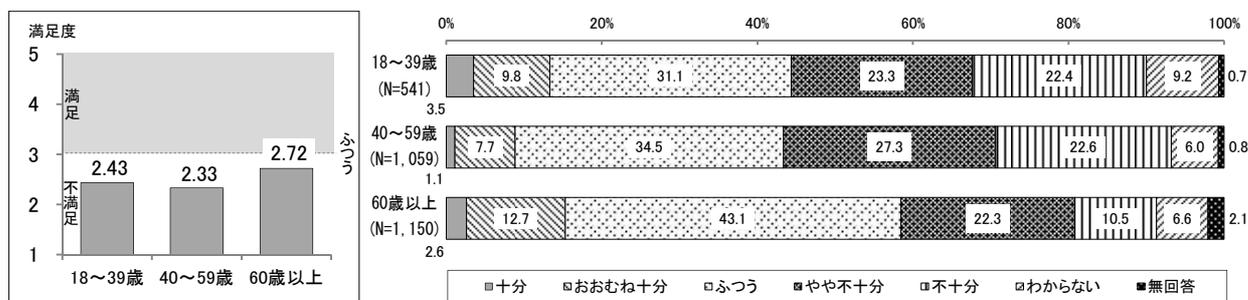
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.51で、「ふつう」の3より0.49低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.6%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は49.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.72であり、不満を感じていない人の割合は58.4%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.33であり、不満を感じていない人の割合は43.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,188人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、300人(25.3%)から回答があった。

回答の一部

- 近くの医療機関まで1時間以上というのも普通で、緊急手術が可能な病院は更に限られている。(男性/30歳代/仙北地域)
- 医療技術が地域で偏り過ぎている気がする。各地域で同等レベルの医療を提供できるようにしてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 高度医療を受けられる病院が少なく、医師が不足していると思う。(女性/40歳代/北秋田地域)

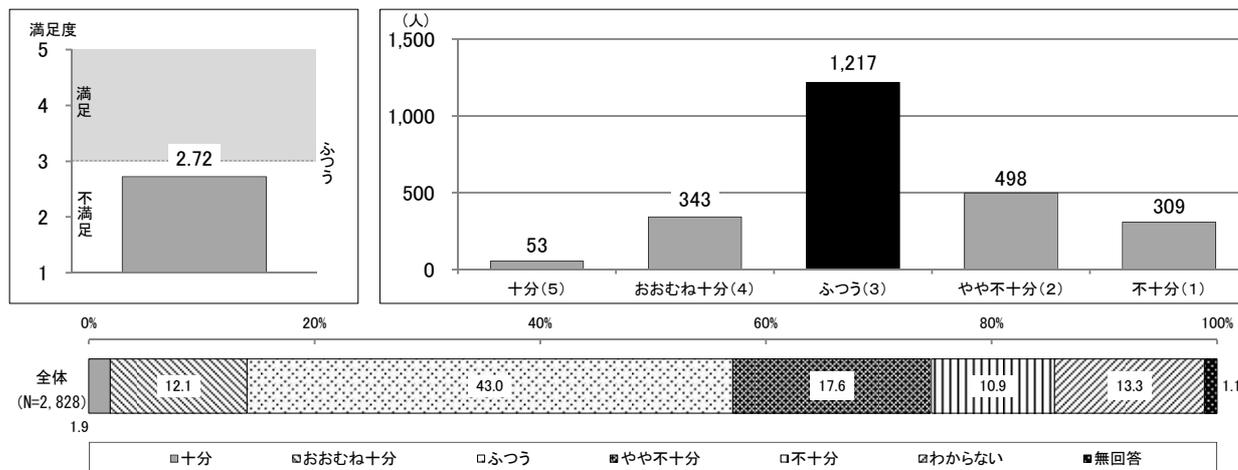
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

問 1-26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

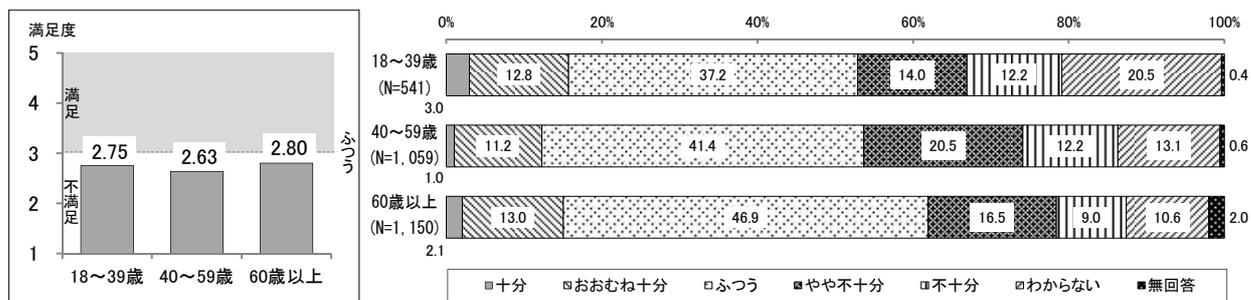
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.0%、「ふつう」は43.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.80であり、不満を感じていない人の割合は62.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63であり、不満を感じていない人の割合は53.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した807人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、146人(18.1%)から回答があった。

回答の一部

- 高齢者が多いが、介護施設に入居できなくて順番待ちをしている人が周りにたくさんいる。(女性/40歳代/鹿角地域)
- 介護施設、人員も不足している中でニーズに合ったサービスの提供は難しいものがある。まずは介護を提供する側の環境を整えていく必要がある。(女性/50歳代/由利地域)
- 福祉施設の体制にばらつきが大きく、ニーズに合ったサービスにつながらない。(女性/30歳代/仙北地域)

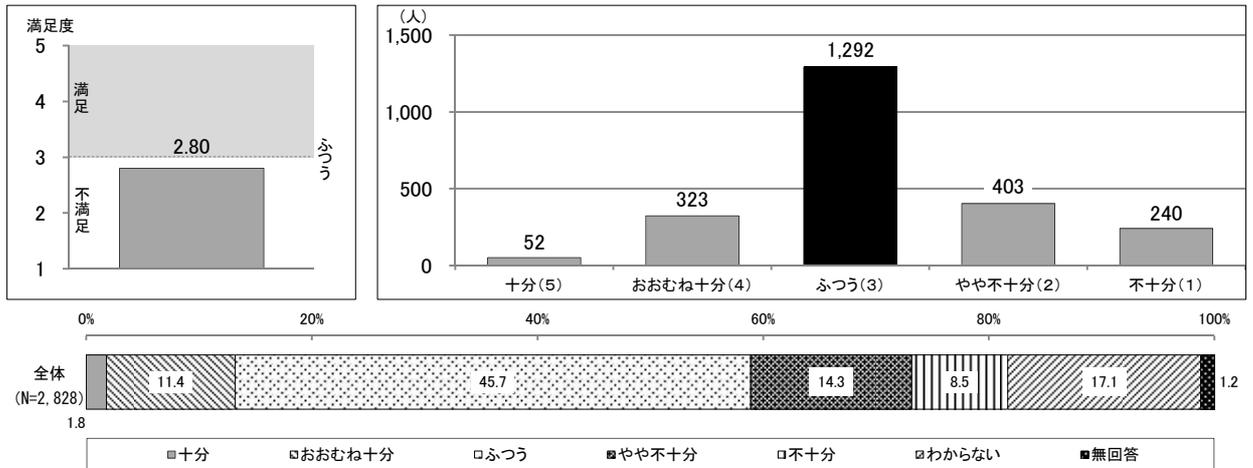
オ 次代を担う子どもの育成

問 1-27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

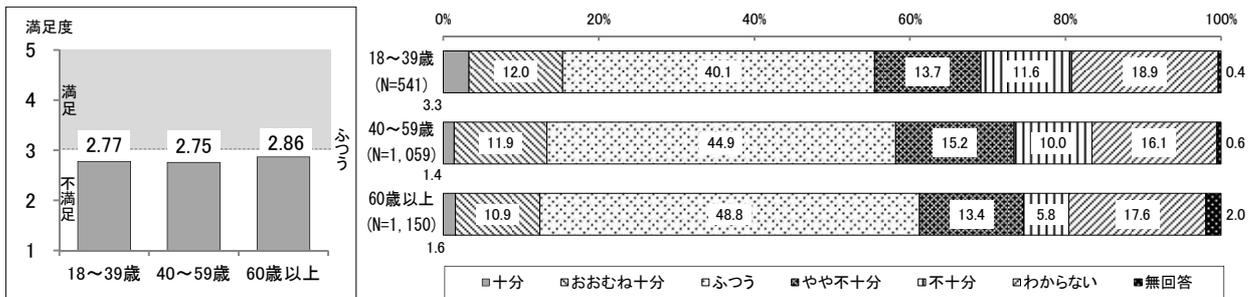
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.80で、「ふつう」の3より0.20低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.2%、「ふつう」は45.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.86であり、不満を感じていない人の割合は61.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.75であり、不満を感じていない人の割合は58.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した643人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、79人(12.3%)から回答があった。

回答の一部

- 親がお金を稼げれば子どもも幸せだと思う。(女性/20歳代/由利地域)
- 預け場所がなく、一時保育も常にいっぱい。親もストレスがたまる。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 生活困窮者等への支援において、ある程度の物的支援は確保されていると思われるが、県民意識を始め、それを包摂する社会環境が整っていない。(男性/50歳代/平鹿地域)

(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

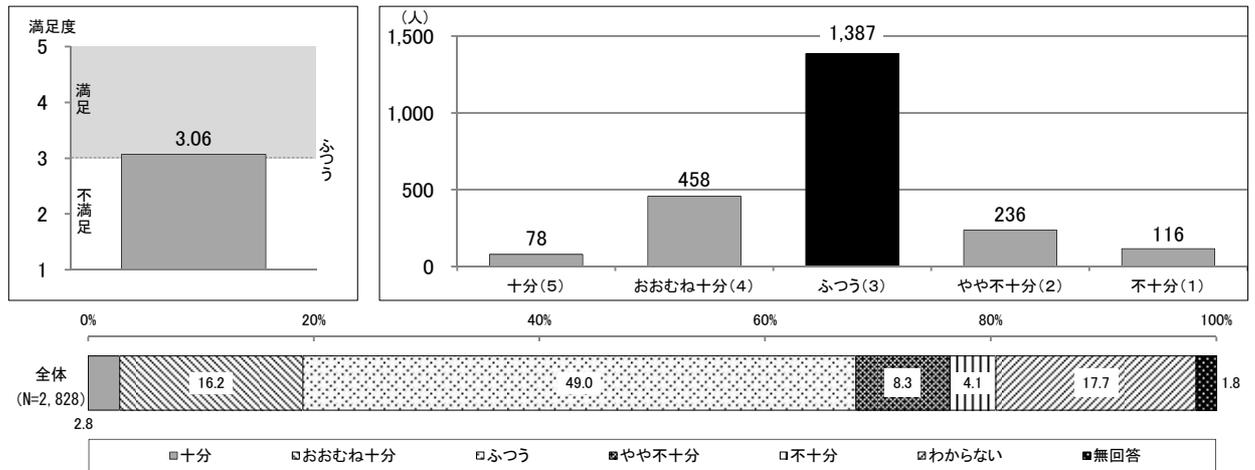
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

問1-28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

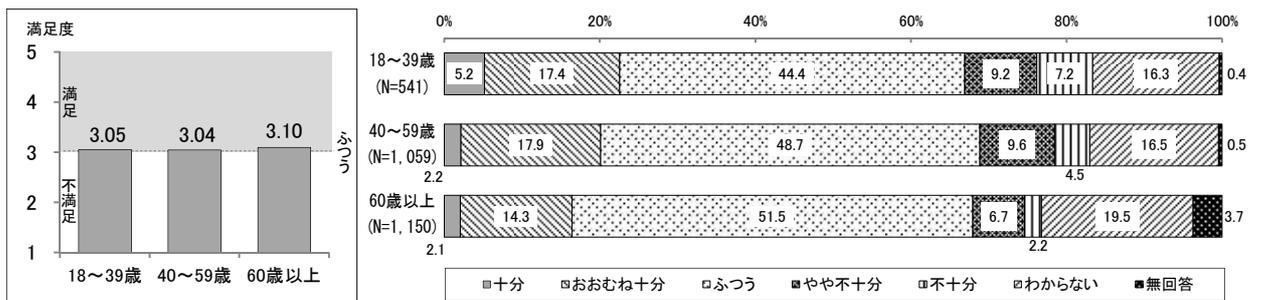
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.0%、「ふつう」は49.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は12.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.10であり、不満を感じていない人の割合は67.9%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.04であり、不満を感じていない人の割合は68.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した352人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、53人(15.1%)から回答があった。

回答の一部

- 学校教育だけで、ふるさと秋田を愛し支える心を育てていくのは難しい現状にある。(女性/50歳代/由利地域)
- 県内に住み続けている若者も、ふるさと秋田が良いからというよりは、家族と一緒に良いからという理由で秋田に暮らす人が多いと思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 秋田を愛していても県内の大学に学びたい学科がなければ県外へ進学し、そのまま秋田へ戻ってくることはない。(女性/40歳代/仙北地域)

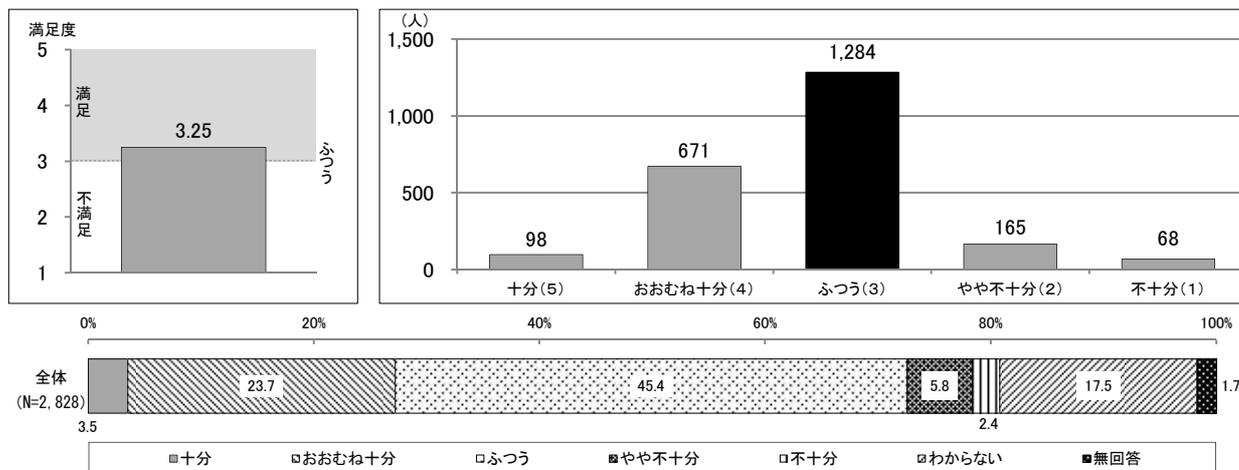
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

問1-29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

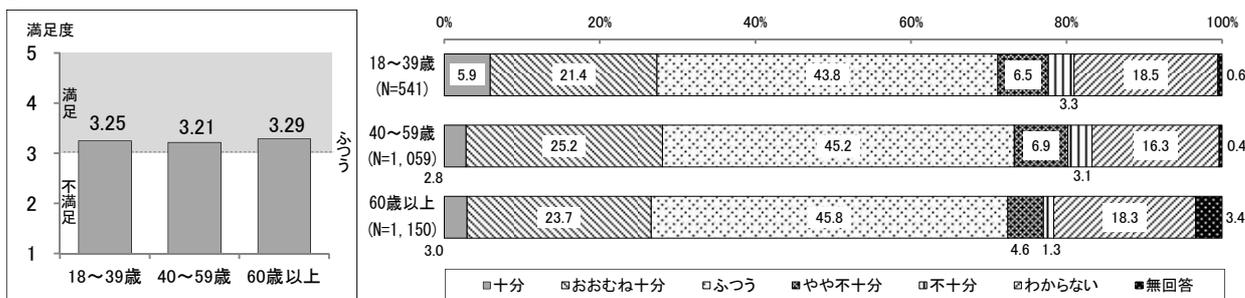
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.25で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は27.2%、「ふつう」は45.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は8.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は72.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.29であり、不満を感じていない人の割合は72.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.21であり、不満を感じていない人の割合は73.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した233人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、38人(16.3%)から回答があった。

回答の一部

- 暗記すればよだけのテストが多い気がする。答えが合っても計算式が違うという理由で×を付けたりすると想像力は低くなりそう。(女性/20歳代/鹿角地域)
- 多量の宿題などを「やらされる」ことが多く、自発的な活動が行われるとは言えないと感じる。(男性/40歳代/秋田地域)
- 年齢に関係なく、指示待ち、与えられ待ちの子が多く、こうしたらどうなるか、自分が楽しければよく、周囲の迷惑を考えないなど想像力に欠ける子が多いと思う。(女性/30歳代/北秋田地域)

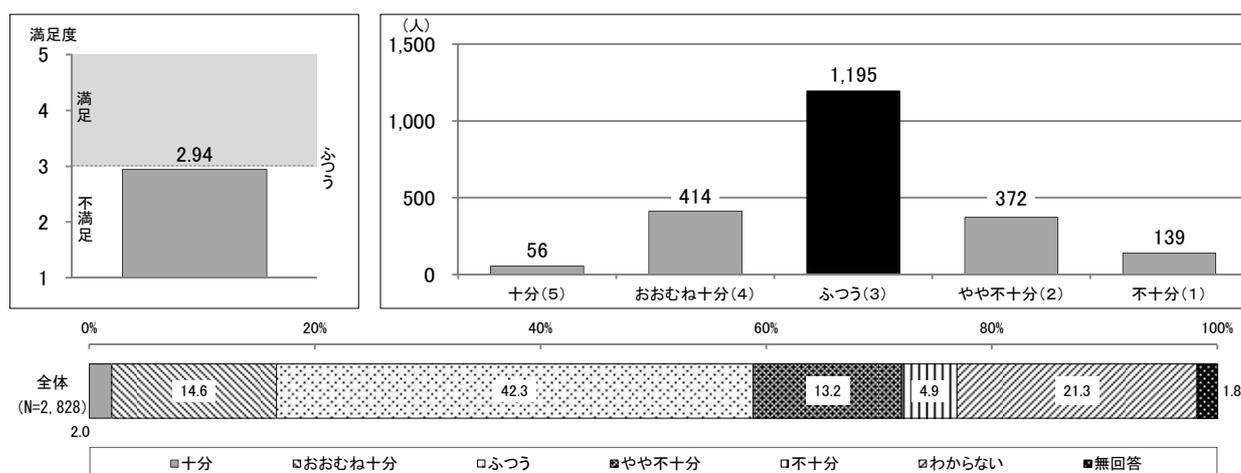
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成

問 1-30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

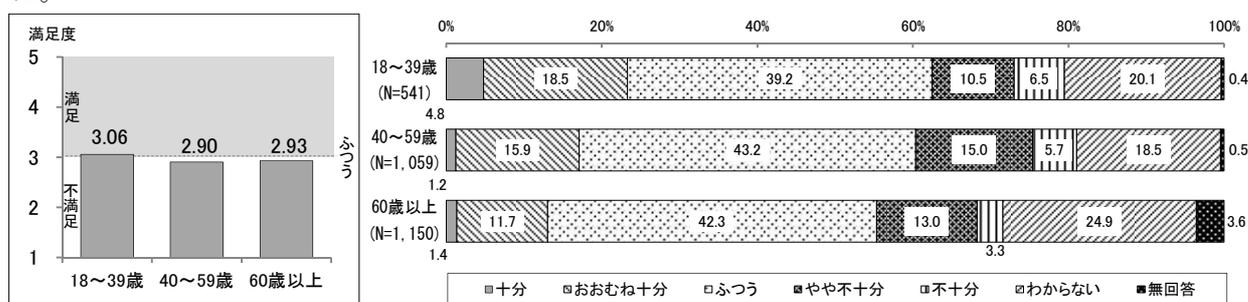
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.94で、「ふつう」の3より0.06低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.6%、「ふつう」は42.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.06であり、不満を感じていない人の割合は62.5%であった。一方、「40歳～59歳」の満足度は2.90であり、不満を感じていない人の割合は60.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した511人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、75人(14.7%)から回答があった。

回答の一部

- もっと外国人と交流する機会を増やした方がよいと思う。(女性/30歳代/仙北地域)
- まだ、学校教育だけを受けて積極的に外国人の人と話そうという気持ちになっていない子どもを見ている。(女性/30歳代/秋田地域)
- 英語教育だけでは英語コミュニケーション能力は育まれないと思う。文化に対する知識や理解が不十分であると思う。(女性/60歳代/北秋田地域)

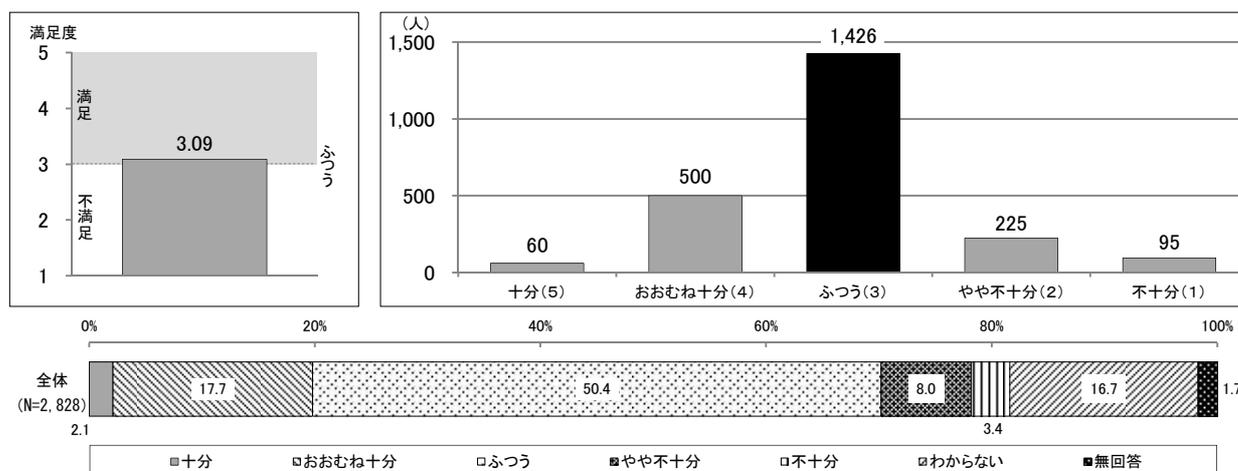
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成

問 1-31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

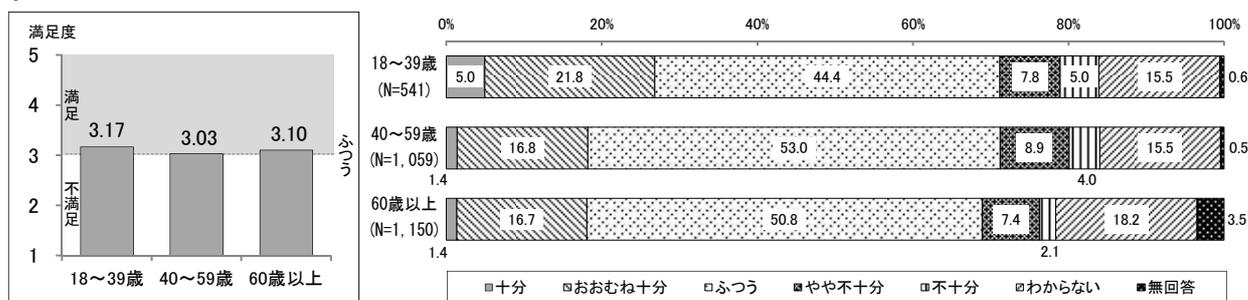
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.09で、「ふつう」の3より0.09高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.8%、「ふつう」は50.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は11.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は70.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.17であり、不満を感じていない人の割合は71.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.03であり、不満を感じていない人の割合は71.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した320人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、57人(17.8%)から回答があった。

回答の一部

- 学校教育に全てを一任するのではなく、家庭での関わり方も大きく関わってくるのではないかと。(女性/20歳代/仙北地域)
- すばらしい子どもは本当にすばらしい人間性をもっているが、両極端に育まれている。(男性/30歳代/秋田地域)
- 他県よりははじめの件数は少なく感じるが、人数当たりの割合で考えたら同じようなものかもしれない。学校という閉鎖的な環境で他人への思いやりや豊かな人間性を育むことは難しい。学校外の世界を体験させる方が意味があるのではと感じる。(男性/30歳代/秋田地域)

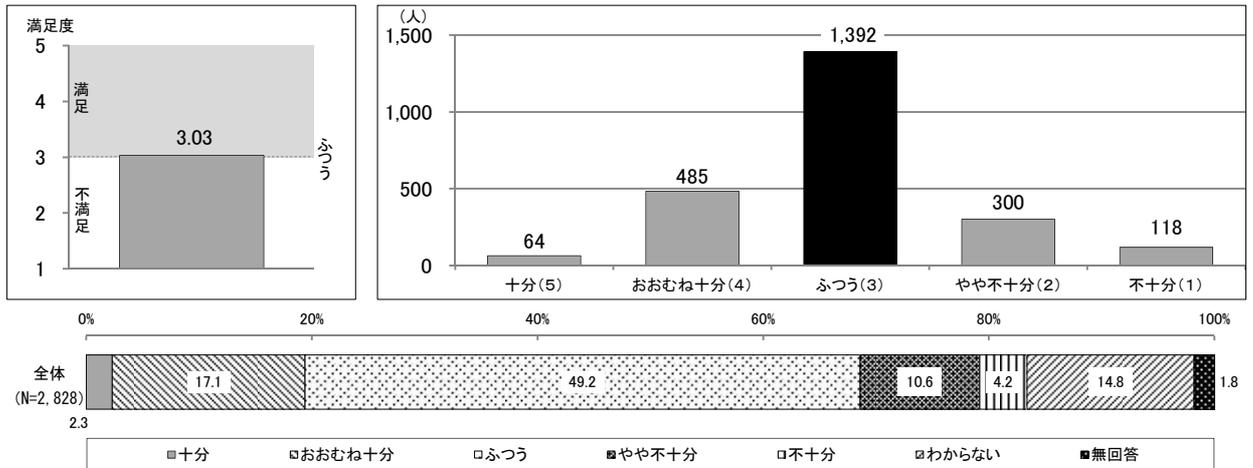
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

問1-32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

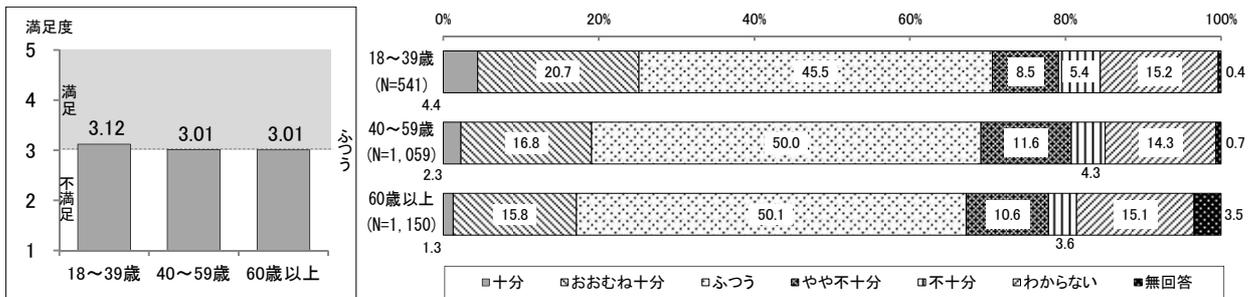
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.03で、「ふつう」の3より0.03高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.4%、「ふつう」は49.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.12であり、不満を感じていない人の割合は70.6%であった。一方、「40歳～59歳」及び「60歳以上」の満足度は3.01であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ69.1%、67.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した418人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、59人(14.1%)から回答があった。

回答の一部

- 家庭・地域とも共稼ぎの世帯・核家族が多く、社会として子どもを支えることは難しい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 地域、家庭の力が衰退しているので、子どもの成長に関わる大人が少なくなっている。全て学校側に頼りすぎで、学校の機能が低下していると思う。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 悪いことをした子を叱ると親が飛んでくる世知辛い世の中になっているため、地域や先生の子どもの成長を支える力に制約がかかっていると思う。(男性/30歳代/秋田地域)

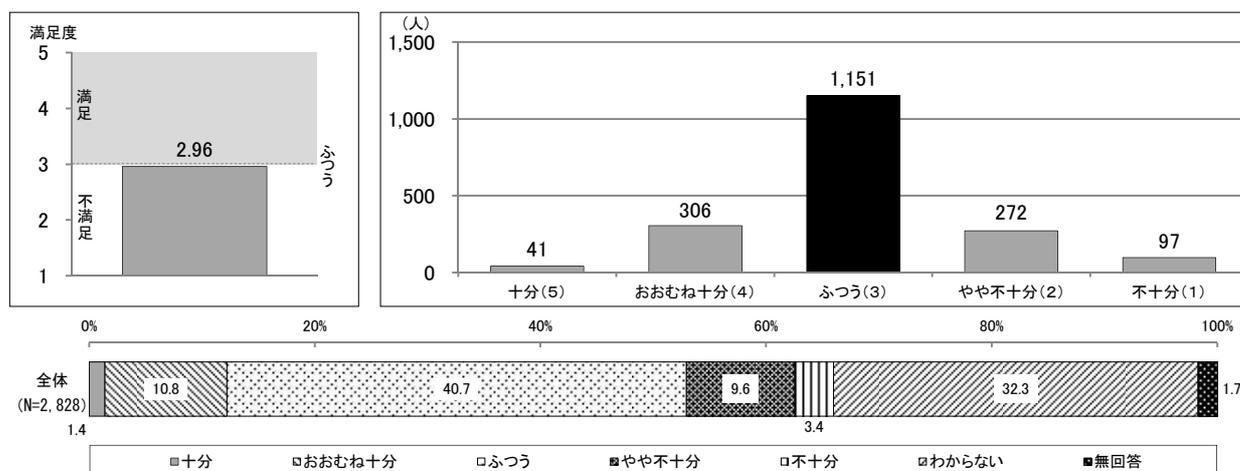
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

問 1-33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

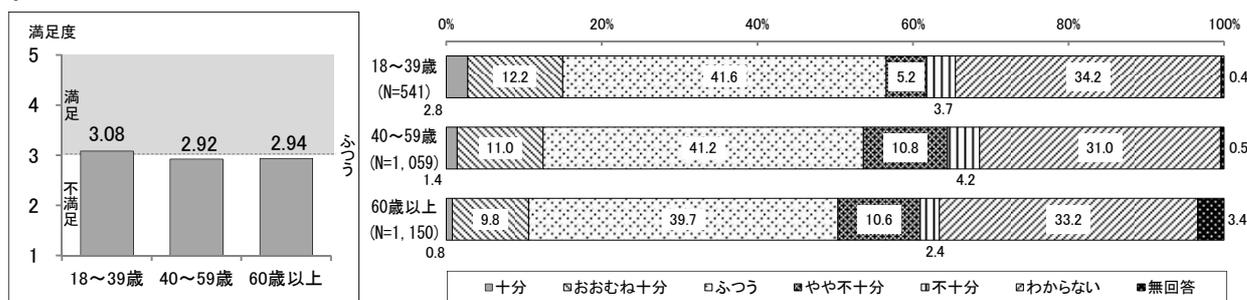
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.96で、「ふつう」の3より0.04低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.2%、「ふつう」は40.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は13.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は52.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.08であり、不満を感じていない人の割合は56.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.92であり、不満を感じていない人の割合は53.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した369人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、43人(11.7%)から回答があった。

回答の一部

- 県内大学の活動内容を企業等にアピールできれば、今後の県内就職等にも役立つのではないかと。少しでも若者の県外流出を減らせると思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 産学官の連携については実績が見えづらく、また、恩恵が限定的であると感じる。(男性/30歳代/仙北地域)
- ニュースによると、低カリウム野菜の栽培技術など広く世の中に浸透しつつあるものも存在するが、地域の活性化につながっているとは残念ながら言えないと思う。高齢化、人口減、インフラ維持など秋田の問題にマッチした研究が少ないように思う。(男性/30歳代/秋田地域)

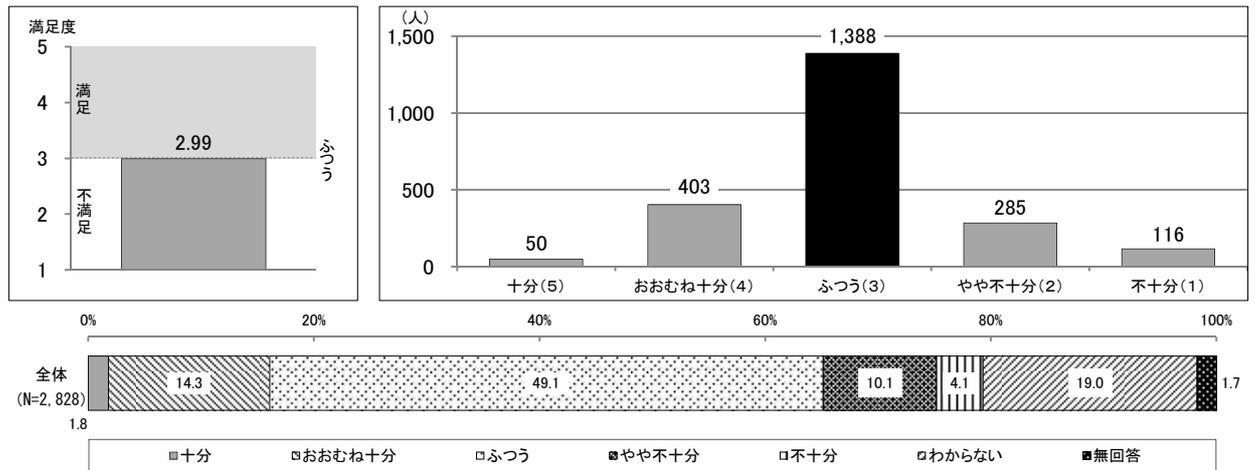
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

問 1-34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

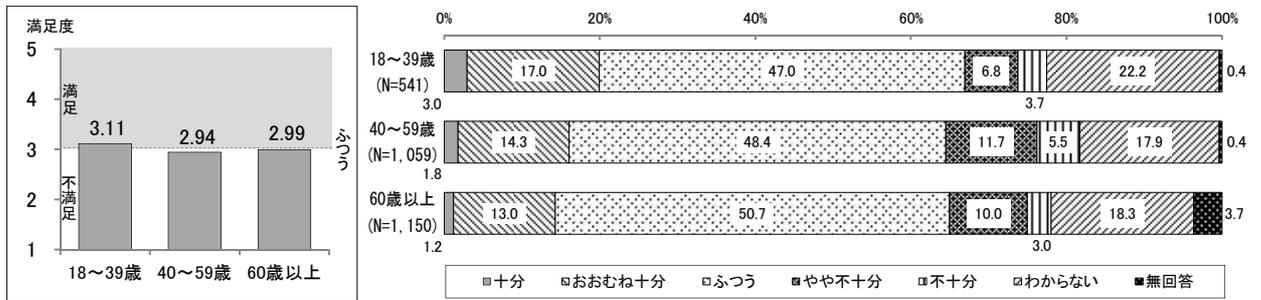
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.1%、「ふつう」は49.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は65.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.11であり、不満を感じていない人の割合は67.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.94であり、不満を感じていない人の割合は64.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した401人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(16.5%)から回答があった。

回答の一部

- 都会と比べると子どもにとって色々な文化を見る機会が少ない。(男性/20歳代/仙北地域)
- 秋田市などでは芸術に触れる機会は大いにあるが、秋田市以外の地域ではなかなか触れる機会がない。(女性/40歳代/仙北地域)
- 生涯学習の催しへの若者の参加が少なすぎて、半ば退職者向けの趣味・娯楽にしかならない。もっと若者の利用を向上させるべき。また、講演会や講座の様子をライブ配信したり、動画サービスにアップロードして時間の取れない人も利用できるようにすべき。(男性/30歳代/秋田地域)

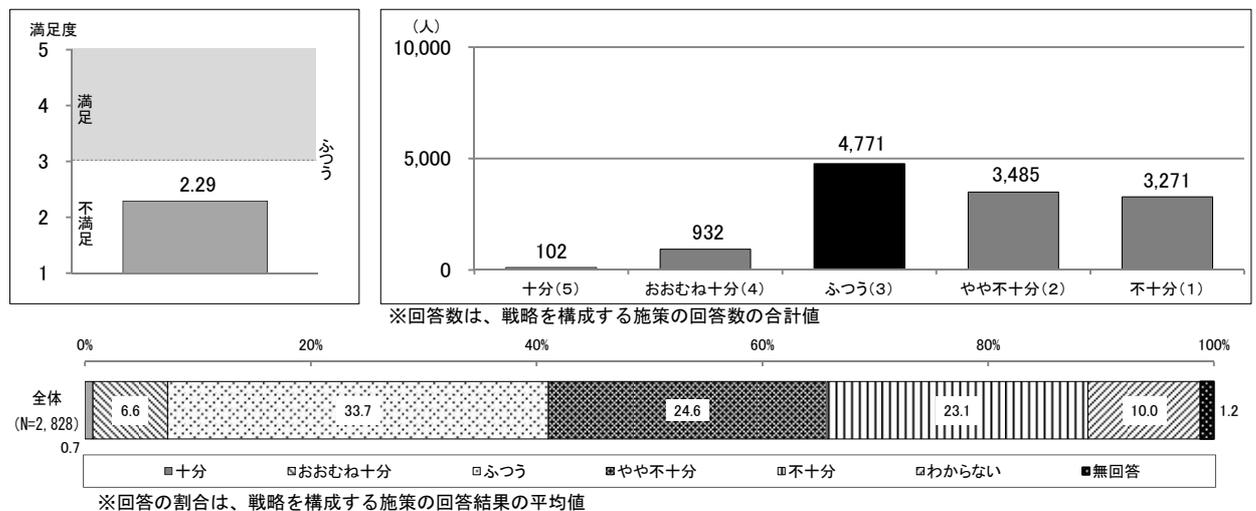
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 秋田の未来につながるふさと定着回帰戦略（問1-1～問1-5）

5段階評価の満足度の平均値は2.29で、「ふつう」の3より0.71低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

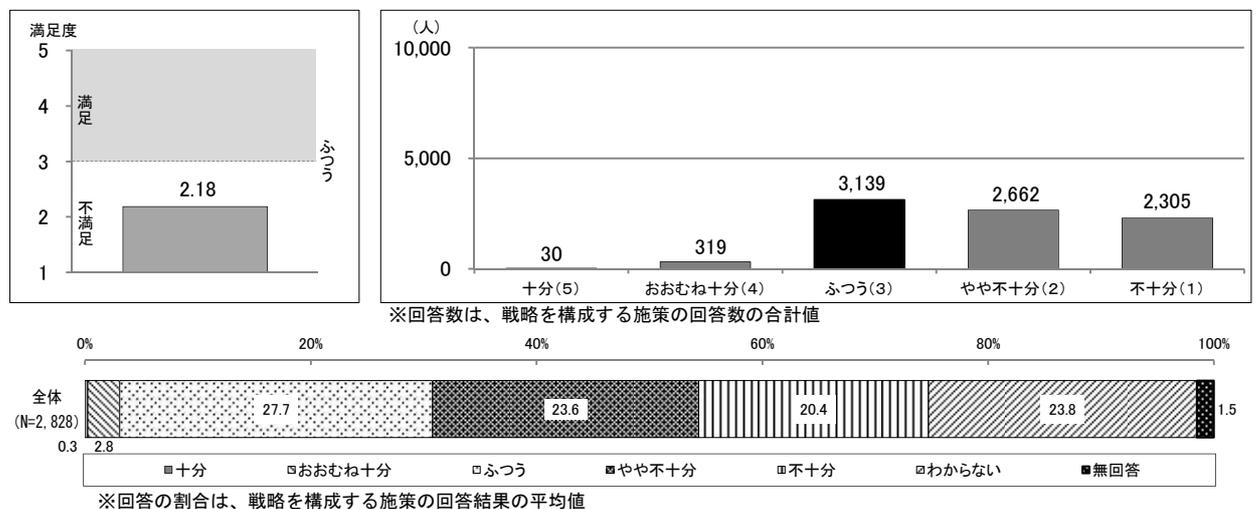
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.3%、「ふつう」は33.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は47.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は41.0%であった。



戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問1-6～問1-9）

5段階評価の満足度の平均値は2.18で、「ふつう」の3より0.82低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

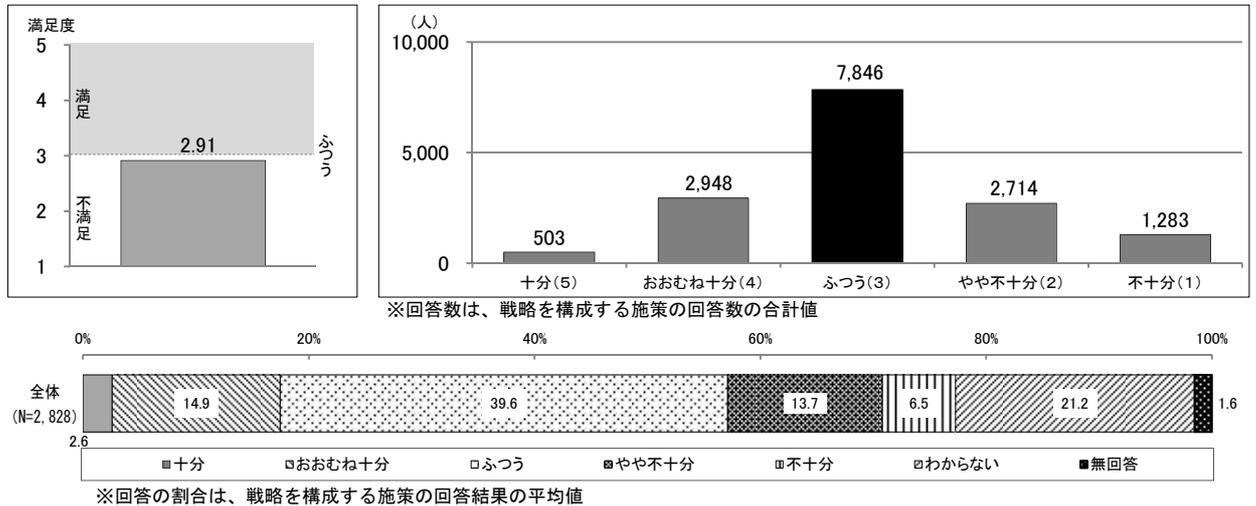
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.1%、「ふつう」は27.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は30.8%であった。



戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

5段階評価の満足度の平均値は2.91で、「ふつう」の3より0.09低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

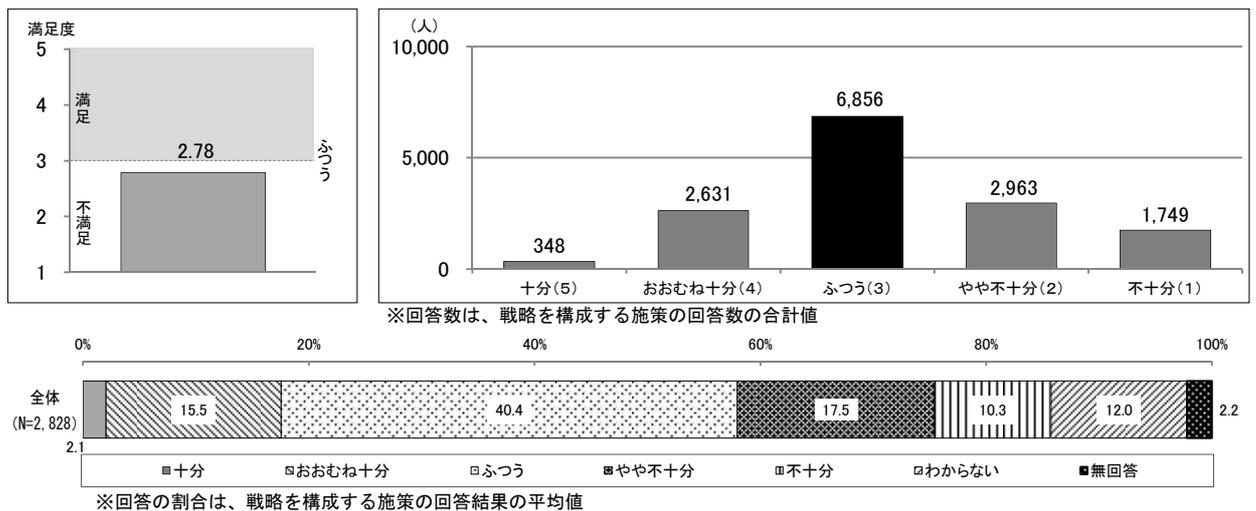
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.5%、「ふつう」は39.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は20.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.1%であった。



戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

5段階評価の満足度の平均値は2.78で、「ふつう」の3より0.22低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

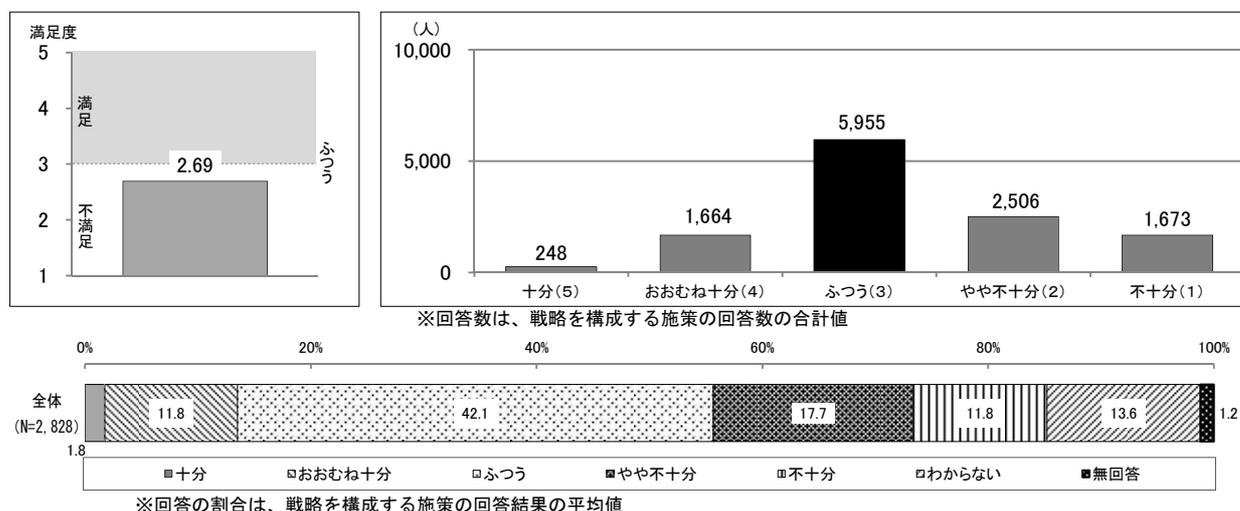
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.6%、「ふつう」は40.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.0%であった。



戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

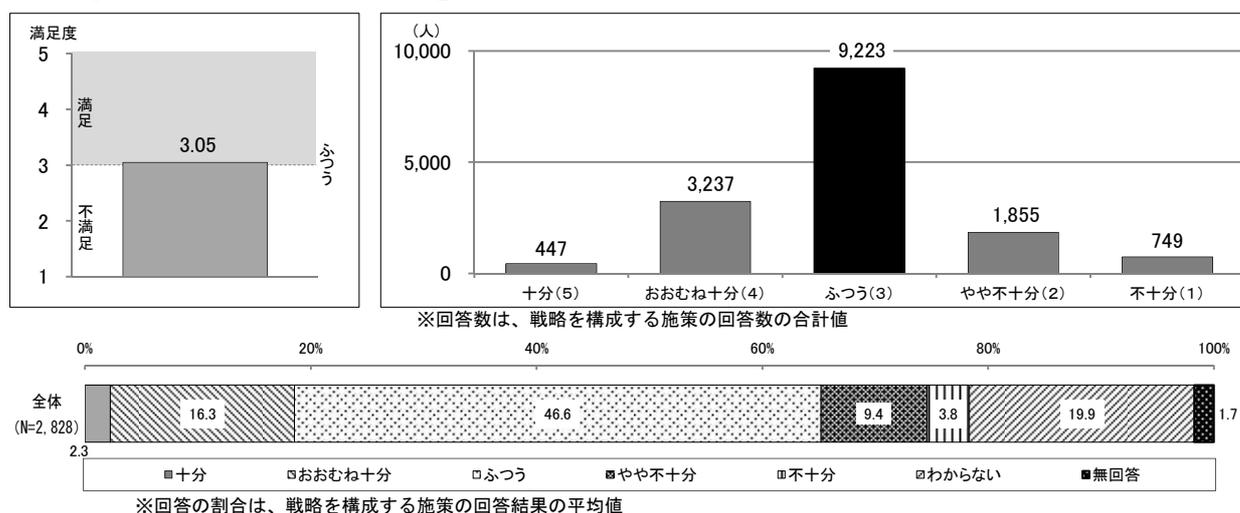
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.6%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は55.7%であった。



戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

5段階評価の満足度の平均値は3.05で、「ふつう」の3より0.05高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

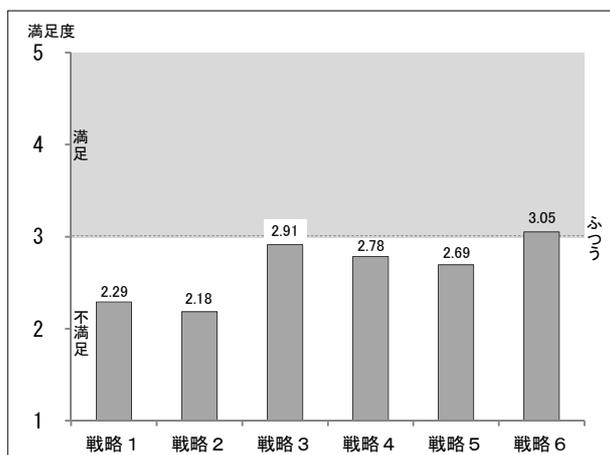
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.6%、「ふつう」は46.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は13.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は65.2%であった。



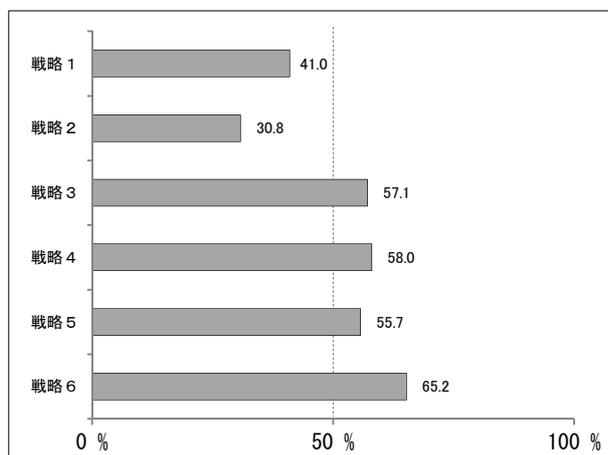
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の3.05で、不満を感じていない人の割合は65.2%であった。次いで、「戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の2.91で、不満を感じていない人の割合は57.1%であった。

満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の2.18で、不満を感じていない人の割合は30.8%であった。

〔満足度の平均値〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。